

受クルコトヲ得サル者ヨリ葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルトキ若ハ氏名居所不明ノ者ヨリ葉煙草ヲ讓受ケタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス(同上)

第二十一條ノ二 免許ヲ受ケスシテ煙草製造ヲ業トシタル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トシタル者ハ免許料ハ二倍以上五倍以下ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ製造煙草ノ現存スルトキハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス(同上ヲ以テ追加)

第二十一條ノ三 煙草製造ヲ業トスル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者葉煙草ニ非サル品類ヲ使用シテ煙草ヲ製造シ又ハ葉煙草製造ニ供スヘキ目的ヲ以テ葉煙草ニ非サル品類ヲ賣買シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造品若ハ其使用ニ供スヘキ葉煙草以外ノ品類ノ現存スルトキハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス(同上)

第二十二條 葉煙草ヲ耕作スル者自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏シ又ハ政府ノ認許ヲ受ケスシテ翌年三月三十一日ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル葉煙草ハ何人ノ所有ヲ問ハス政府之ヲ收納シ第四條ニ準シテ其賠償金ヲ交付スヘシ(同上ヲ以テ改正)

葉煙草耕作者以外ノ者届出ヲ爲サス他人ノ葉煙草ヲ貯藏シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ貯藏葉煙草ニシテ其ノ所有者不明ナルトキハ仍前項但書ヲ適用ス

第二十三條 葉煙草耕作者變更ノトキ其ノ繼承ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十四條 煙草製造ヲ業トスル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者營業ニ係ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(同上)

第二十五條 政府ニ對シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ之ヲ怠リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 葉煙草及帳簿ノ検査ニ際シ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ依ル(同上)

第二十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 葉煙草ヲ耕作スル者又ハ葉煙草製造ヲ業トスル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ其ノ代理人家族同居者雇人ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキ自己ノ指揮ニ出テサルハ故ヲ以テ本法ハ處罰ヲ免ルコトヲ得ス(同上)

附 則

第二十九條 本法ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第三十條 特別ノ狀況アル地方ニ限り勅令ヲ以テ本法ヲ施行セサルコトヲ指定スルコトヲ得(同上)

政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ葉煙草又ハ製造煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯シタル者ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ製造煙草ノ現存スルトキハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第三十一條 明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス但シ煙草製造營業者ニ於テ本法施行前ヨリ持越タル葉煙草ヲ以テ製造シタル煙草ニ關シテハ仍明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用ス

第三十二條 本法施行ノ際煙草仲買人又ハ葉煙草耕作者ノ所持スル葉煙草ハ政府ニ納付スヘシ但シ納付ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 本法施行後葉煙草ノ讓渡ヲ受クルコトヲ得サル者本法施行ノ際所有スル葉煙草ハ明治三十三年四月三十日迄ニ煙草製造ヲ業トスル者若ハ葉煙草買買ヲ業トスル者ニ讓渡スヘシ若シ此ノ期限ヲ過キ仍葉煙草ヲ所有セムトスル者ハ其ノ種類量目ヲ政府ニ申出テ認許ヲ受クヘシ犯シタル者ハ其ノ葉煙草ヲ沒收ス(同上ヲ以テ追加)

第三十四條 外國ヨリ輸入スル葉煙草ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ其ノ施行期日ヲ定ム(同上)

(參照)

三十年大藏省令第六號施行細則

● 印紙稅法

明治三十二年三月
法律第五十四號

印紙稅法

第一條 財産權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條 爲替手形約束手形ハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ

金高二千圓未滿 印紙稅二錢
金高二千圓以上 印紙稅十錢

第四條 左ニ掲グル證書帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

一 委任狀 印紙稅一錢
一 銀行預金證書 印紙稅二錢

印紙稅法

- 一 船荷證券 印紙税二錢
- 一 運送貨物引換證 印紙税二錢
- 一 倉荷預證券 印紙税二錢
- 一 倉荷買入證券 印紙税二錢
- 一 保險證券 印紙税二錢
- 一 株 券 印紙税二錢
- 一 債 券 印紙税二錢
- 一 株式申込證 印紙税二錢
- 一 地上權永小作權地役權ニ關スル證書 印紙税二錢
- 一 使用貸借、質貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書 印紙税二錢
- 一 定款及組合契約書 印紙税二錢
- 一 權利ノ變更ニ關スル證書 印紙税二錢
- 一 追認承認ニ關スル證書 印紙税二錢
- 一 物品切手 印紙税二錢
- 一 送 狀 印紙税二錢
- 一 受取書 印紙税二錢

- 一 金高記載ナキ證書 印紙税二錢
 - 一 擔保品差入證書擔保品預證書 印紙税二錢
 - 一 通 帳 印紙税二錢
 - 一 判取帳 印紙税二十錢
- 第五條 左ニ掲グル證書、帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス
- 一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
 - 一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
 - 一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
 - 一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金貨物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
 - 一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料旅費及救恤金ノ受取書
 - 一 小切手
 - 一 金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形
 - 一 營業ニ關セサル受取書
 - 一 金高五圓未満若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ賣買仕切書
 - 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
 - 一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書

一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載

一 手形引受、保證

一 手形及證券ノ拒絕證書

一 手形及證券ノ複本、謄本

第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ爲替手形、約束手形、船荷證券、運

送貨物引換證、倉荷預證券、倉荷買入證券、保險證券、株券、債券ハ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政

府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼

用スヘシ

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印

章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高

二十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス

第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

附 則

第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所

持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ

之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

【參照】

三十二年大藏省令第五號證券ニ稅印ノ押捺請求方

三十一年勅令第四百號收入印紙ノ件

●賣藥印紙稅規則

明治十五年十月 第五十一號布告

賣藥印紙稅規則左ノ通相定メ來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

賣藥印紙稅規則

- 一 定價壹錢迄 印稅壹厘
- 一 同 貳錢迄 同 貳厘
- 一 同 參錢迄 同 參厘
- 一 同 五錢迄 同 五厘
- 一 同 拾錢迄 同 壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第一條 印紙種目ハ左ノ如シ

- 壹厘 淡黑色
- 貳厘 青色
- 參厘 黃色
- 五厘 茶褐色
- 壹錢 赭色
- 貳錢 綠色
- 三錢 濃青色
- 四錢 橙黃色
- 五錢 紫色

拾錢

深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥

品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰

金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

(印紙貼用雛形略ス)

〔參照〕

十九年大藏省令第二十三號賣藥印紙交換規則

無印紙ノ賣藥買受讓受等ノ禁止

明治十九年七月
大藏省令第二十三號

賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ讓受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス犯ス者ハ金一圓九十五錢以

賣藥印紙稅規則

北海道水産税則

明治二十年三月
勅令第六號

北海道水産税則

第一條 北海道水産物營業人ハ此税則ニ從ヒ水産税ヲ納ムヘシ

第二條 北海道廳長官ハ水産税ヲ徵收スル爲メ水産物營業人ノ組合ヲ定ムヘシ

第三條 水産税ハ各組合水産物產出高價額百分ノ五ヲ以テ其組合一箇年ノ税額ト爲シ之ヲ各營業人ニ

賦課スルモノトス

第四條 此税則ニ於テ水産物トハ左ノ種類ヲ云フ

第一類

生鮭 ナマサケ 生鱈 ナママス 生鰯 ナマイ 生鱈 ナマダラ 生鮭 ナマカサヒ

生鮭 ナマサケ 海馬 トビ

第二類

魚粕 ウサカス 乾身秋鮭 ホシミカサケ 乾胴鮭 ホシドクニシ 乾脊割鮭 ホシヤウリニシ 乾外割鮭 ホシホコワリニシ 乾ニツ割鮭 ホシニツ 鮭鮭粕 カサノコカス
鹽鮭 シホサケ 鹽鮭 シホマス 鹽鮭 シホイ 鹽鮭 シホシ 鹽鮭 シホダラ 乾鮭 ホシサケ 乾鮭 ホシマス 乾鮭 ホシイ 乾鮭 ホシシ 乾鮭 ホシダラ 乾鮭 ホシカサヒ
乾鮭 ホシサケ 鹽鮭 シホサケ 乾鮭 ホシサケ 乾鮭 ホシサケ 乾鮭 ホシサケ 乾鮭 ホシサケ 乾鮭 ホシサケ 乾鮭 ホシサケ 乾鮭 ホシサケ 乾鮭 ホシサケ

乾海扇 ホシカタ 乾牡蠣 ホシカキ 昆布 シシア 細布 ホシメ 布海苔 フイイ 若布 ワカメ 銀杏草 ギンナン

第五條 此税則ニ於テ水産物營業人トハ第四條第一類ノ水産物ヲ採取スル者又ハ原品ニ勞力ヲ加ヘテ

第四條第二類ノ水産物ト爲ス者ヲ云フ

第六條 水産税ハ明治十五年ヨリ同十七年マテ三箇年間ノ水産物產出高ヲ平均シ其三箇年間北海道ニ

於テ該税品拂下ヲ爲シタル代價ヲ平均シテ價額ヲ定メ其組合ノ税額ヲ算出スルモノトス但明治二十年以後三箇年以上ヲ經過シ大藏大臣ニ於テ北海道ノ全部又ハ其幾部ニ就キ水産物既定ノ價額不相當ナリト認ムルトキハ更ニ既往三箇年間ノ產出高並其賣買相場ヲ平均シテ之ヲ改正スヘシ

第七條 第四條第一類ノ水産物ヲ以テ第二類ノ水産物ト爲ストキハ第二類ノ水産物ニ就キ課税ス

第八條 水産物營業人トナラントスル者ハ水産物營業人ノ組合ニ加入スヘシ

第九條 水産物營業人組合ハ納税委員ヲ置キ其組合ニ係ル納税ノ事ヲ擔理セシム但納税委員ニ關スル費用ハ其組合ノ負擔トス

前項納税委員ハ組合會ニ於テ其會員中ヨリ之ニ充ツヘキ者若干名ヲ選舉シ其中ニ就キ北海道廳長官之ヲ指定ス但納税委員ハ三箇年毎ニ之ヲ改選スルモノトス(二十二年法律第八號ヲ以テ改正)

第十條 納税委員ハ水産物營業人組合會ヲ開キ組合ノ税額ニ對シ各自ノ負擔スヘキ税金ヲ評決セシメ郡區長ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム但シ營業人ノ組合會期其ノ他本條ニ關スル手續ハ北海道廳長官之ヲ

定ム

北海道水産税則

(同上)

第十一條 (同上ヲ以テ削除)

第十二條 (同上)

第十三條 第八條ノ組合ニ加入セスシテ水産物ノ營業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ其水産物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徴ス

第十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十五條 水産稅ノ納期及此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附 則

第十六條 從前現品定稅ヲ徵收シ又ハ現品稅ヲ徵收セス若クハ無稅ニシテ明治十五年ヨリ同十七年マ

テ三箇年間ノ產出高詳カナラサルモノハ當分其營業人各自ノ現產出高ニ就キ第六條ノ稅品拂下代價

ヲ以テ價額ヲ定メ其百分ノ五ヲ稅金トシ徵收スヘシ但明治二十年以後三箇年ヲ經過シタル上ハ大藏

大臣ニ於テ本稅則ニ據リ改正スヘシ

第十七條 前條ノ營業人ニ關シ特ニ明文ヲ掲ケサルモノハ第十條ノ稅金ニ係ル事項ヲ除クノ外總テ此

稅則ニ從フヘシ

第十八條 第十六條ノ營業人ニシテ其水産物ノ產出高ヲ偽リ連稅シタル者ハ其連稅高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處シ其水産物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徴ス但自首スル者ハ其稅金ヲ追徴シ

其罪ヲ問ハス

第十九條 明治十年第五十六號布告同十七年第四號布告同年第十二號布告及從前北海道物產稅ニ關ス

ル命令規則ハ此稅則施行ノ日ヨリ廢止ス

(參照)

二十五年大藏省令第六號施行細則(次項)

◎北海道水産稅則施行細則

明治二十五年六月
大藏省令第六號

北海道水産稅則施行細則

第一條 水産稅ノ納期及其納額割合ハ左ノ如シ但組合會ノ評決ヲ以テ每納期ノ納額割合ヲ繰上ケ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其繰上ケヘキ割合ヲ定メ郡區長ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケ

ヘシ

渡島國(函館區龜田郡ヲ除ク) 後志國 石狩國(石狩郡ヲ除ク) 天鹽國 北見國

第一期 六月一日ヨリ
六月二十日限リ

百分ノ四十

但北海道廳長官ハ各地方漁業ノ期節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ本項ノ納期ヲ七月三十一日マテ繰下グルコトヲ得此場合ニ於テハ其事由ヲ具シ大藏大臣ニ報告スヘシ

北海道水産稅則施行細則

第二期	八月一日ヨリ 八月三十一日限リ	百分ノ四十
第三期	十月一日ヨリ 十月三十一日限リ	百分ノ七
第四期	十二月一日ヨリ 十二月二十八日限リ	百分ノ七
第五期	翌年三月一日ヨリ 同三月三十一日限リ	百分ノ六
第一期	六月一日ヨリ 六月二十日限リ	百分ノ五
第二期	八月一日ヨリ 八月三十一日限リ	百分ノ二十
第三期	十月一日ヨリ 十月三十一日限リ	百分ノ二十五
第四期	十二月一日ヨリ 十二月二十八日限リ	百分ノ二十五
第五期	翌年三月一日ヨリ 同三月三十一日限リ	百分ノ二十五

納税委員ハ毎年水産物毎種類産出ノ終リタルトキ其組合ニ於テ産出ノ水産物總高並價格ヲ調

查シテ取調書ヲ製シ戸長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ届出ヘシ但其産出ノ季節ヲ限ラサルモノハ前半年分ヲ其年八月ニ後半年分ヲ翌年二月ニ取調ヘ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 水産物ノ總高取調ニ關シ水産物營業人ニ於テ其水産物産出高及價格ヲ偽リ又ハ納税委員ノ調査ヲ拒ムトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス但産出高及價格ヲ偽リタル者自首スルトキハ其罪ヲ問ハス

第四條 北海道廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ各組合水産物産出高並價格届出ノ正否及税金賦課徵收方法等ノ實況ヲ検査スルコトアルヘシ

〔参照〕

二十年勅令第六號北海道水産税則(前項)

取引所税法

明治二十六年三月 法律第六號

取引所税法

第一條 取引所ハ定期賣買ニ付左ノ割合ニ從ヒ税金ヲ納ムヘシ

一 商品、有價證券 賣買各約定高萬分ノ六箇

一 國債及地方債證券 同 萬分ノ三箇

第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及買戻人ノ買高ニ係ル税金ハ之ヲ免除ス

取引所税法

- 第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其ノ税金ハ之ヲ免除セス
- 第四條 取引所ハ每一箇月分賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ管轄ニ届出ヘシ
取引所税額ハ前項ノ届出ニ依リ地方長官之ヲ定ム
- 第五條 取引所税金ハ每一箇月分ヲ翌月二十日マテニ納ムヘシ
- 第六條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會員仲買人ニ就キ其ノ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトアルヘシ
- 第七條 第四條ノ届出ヲ詐リ脱税ヲ圖リ又ハ脱税シタルトキハ取引所理事長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其ノ脱税ニ係ル金額ヲ徴收スヘシ
- 第八條 第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ理事長ヲ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス

附 則

第十條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス

〔參照〕

二十六年法律第五號取引所法(商專ノ部)

噸稅法

明治三十二年三月
法律第八十八號

噸稅法

- 第一條 外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶開港ニ入港シタルトキハ其ノ入港毎ニ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付五錢ノ噸稅ヲ課ス但シ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付十五錢ヲ一時ニ納付スルトキハ其ノ港ニ於テハ滿一箇年間噸稅ヲ納ムルヲ要セス
- 帝國卜測度法ヲ異ニスル國ノ船舶ノ登簿噸數ハ帝國ニ於テ定ムル測度法ニ依リ換算ス
- 第二條 噸稅ハ船舶入港シタルトキハ船長ヨリ税關ニ納付スヘシ
- 第三條 海難其ノ他止ムテ得サル事故ニ由リ入港シタル船舶ニハ噸稅ヲ課セス但シ本條ノ事故ニ由ルニアラスシテ貨物ノ積卸ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 税關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ノ測度ヲ爲スコトヲ得
- 第五條 噸稅ノ通脫ヲ圖リ又ハ噸稅ヲ納付セスシテ出港シタルトキハ船長ヲ其ノ通脫ヲ圖リ若ハ納付セザリシ税金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス
- 第六條 犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法ヲ適用ス但シ通告履行ノ期間ハ告知ヲ受ケタル時ヨリ四十八時以内トス
- 第七條 噸稅ノ徴收ニ關シテハ國稅徴收法ヲ適用セス
- 附 則
- 第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(三十二年六月勅令第三百十八號ヲ以テ施行期日ヲ三

噸稅法

十二年八月四日ヨリト定ム

〔參照〕

三十二年勅令第三百二十號施行規則

同年法律第六十一號關稅法(次項)

●關稅法

明治三十二年三月
法律第六十一號

關稅法

第一章 關稅ノ賦課及徵收

第一條 輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル

通過ノ爲輸入スル貨物ニハ關稅ヲ課セス但シ輸入ノ際擔保トシテ税金ニ相當スル金錢其ノ他ノ有價物ヲ提供スヘシ

第二條 輸入貨物損傷シタル爲減稅ヲ請フ者アルトキハ輸入免許前ニ限リ相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得

第三條 關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ徵收ス但シ保税倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫入申告ノ日、收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ徵收

ス

第四條 關稅ハ輸入申告者ヨリ之ヲ徵收ス但シ逋稅ヲ圖リ又ハ逋稅シタル關稅ハ犯則者ヨリ之ヲ徵收

ス

第五條 關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス

關稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第六條 擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ關稅ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ關稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第七條 關稅ノ徵收權ハ貨物輸入ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因テ消滅ス但シ逋稅ヲ圖リ又ハ逋稅シタル關稅ノ徵收權ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 關稅ノ過誤納ニ因テ生スル請求權ハ關稅納付ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因テ消滅ス

第九條 前二條ノ期限内ニ爲シタル納稅告知若ハ仕拂請求ハ時効ヲ中斷ス

第二章 船舶

第十條 外國貿易船開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時内ニ稅關ニ入港届ヲ爲シ積荷目録、艙口申告書、船用品目録及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ預ケヘシ

第十一條、沿海通航船外國貨物積卸ノ爲開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時間以内ニ其ノ貨物ノ積荷目録ヲ税關ニ提出スヘシ

第十二條、外國貨物ヲ積載セル船舶ハ税關長ノ認可ヲ得タル場合ノ外積荷目録ヲ提出シタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條、外國貿易船開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ税關ニ出港届ヲ爲シ出港免許ヲ受クヘシ

第十四條、外國貿易船貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ出港スルトキハ第十條及第十三條ノ規定ヲ適用セス

第十五條、沿海通航船外國貨物ヲ積載シテ開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ其ノ貨物ノ積荷目録ヲ税關ニ提出スヘシ

前項ノ積荷目録ハ貨物ノ積卸ヲ爲スヘキ地ヲ異ニスル毎ニ之ヲ調製スヘシ

第十六條、積荷目録ハ其ノ提出ノ時ヨリ二十四時以内ニ限り税關ノ認許ヲ得テ之ヲ訂正補足スルコトヲ得

第十七條、外國貨物ヲ積載セル船舶ハ日没ヨリ日出迄ノ間及税關ノ休日ニハ税關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條、外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ス但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ税關官吏、税關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ届出ツヘシ

第十九條、左ニ掲グル外國貨物ヲ不開港ヨリ開港ニ回漕セントスル船舶ノ船長ハ税關官吏、税關官吏在ラサルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受クヘシ

一 假ニ陸揚シタル貨物

二 運航ノ自由ヲ得サル船舶ニ積載セル貨物

三 難破貨物

第二十條、前條ノ貨物ヲ積載シ來リタル船舶開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ認許證ヲ税關ニ提出スヘシ

第二十一條、外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ税關、税關ノ設置ナキ地ニ於テハ税關官吏、税關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ

第二十二條、税關官吏職務ノ爲船舶ニ乗込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二十三條、本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第三章 貨物

第一節 總則

第二十四條、貨物ハ開港ニ由ルノ外輸出若ハ輸入ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在

ヲス

- 一 遭難船舶ノ修繕救援若ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ
 - 二 遭難船舶ニ積載セル損傷貨物若ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ
 - 三 遭難船舶若ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ
 - 四 遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ
- 第二十五條 貨物ノ検査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十六條 日没ヨリ日出迄ノ間及税關ノ休日ニハ税關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ヲ税關ニ送致シ又ハ貨物ノ引取發送ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十七條 税關ニ送致シ若ハ陸揚シタル貨物ノ取扱ハ總テ税關長ノ指揮ニ從フヘシ
- 第二十八條 貨物ノ陸揚船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ハ税關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外税關ニ於テ定メタル場所ニ依ルヘシ
- 第二十九條 輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ内國貨物トス
- 第三十條 貨物ニ關スル本法ノ規定ハ船用品ニ之ヲ適用セス
- 第二節 輸出、輸入及積戻
- 第三十一條 貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ税關ニ申告シ貨物ノ検査ヲ經テ其ノ免許ヲ受テ

ヘシ但シ第二十四條但書ノ場合ニ於テハ税關官吏、税關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ検査及免許ヲ受クルコトヲ得

第三十二條 輸入申告書ニハ仕入書ヲ添付スヘシ但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セサルトキハ關稅ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立テ若ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得ス

第三十三條 通過ノ爲貨物ノ輸入ヲ爲サントスルトキハ之ヲ輸出スヘキ地ヲ異ニスル毎ニ其ノ目錄ヲ提出スヘシ

第三十四條 輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取り若ハ通過ノ爲發送スルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ認許ヲ得税金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 通過ノ爲輸入シタル貨物ノ運送ハ關稅通路ニ由ルヘシ關稅通路ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 運送人ハ通過貨物ニ對シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第三十七條 輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第三十八條 外國貨物ノ積戻ニハ總テ輸出ニ關スル規定ヲ準用ス但シ假ニ陸揚シタル貨物ノ積戻ハ此ノ限ニ在ラス

第三節 回漕

第三十九條 内外國貨物ヲ外國貿易船ニ又ハ外國貨物ヲ沿海通航船ニ積載シ開港間ニ回漕セントスル者ハ税關ニ申告シ貨物ノ検査ヲ經テ回漕免許ヲ受ケヘシ

第四十條 前條ノ回漕貨物ハ回漕免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第四十一條 第三十九條ノ回漕貨物船卸ヲ爲スヘキ地ニ到達シタルトキハ貨物ノ検査ヲ受ケヘシ

第四節 郵便物

第四十二條 郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ税關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

第四十三條 關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局ニ申出テ其ノ關稅ヲ納付スヘシ

前項ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ

第四十四條 郵便物ノ關稅ハ郵便物ヲ名宛人ニ交付スル場合ノ外之ヲ課セス

第四十五條 第一條第二項但書第二十四條第二十六條第三十一條乃至第三十五條及第三十七條乃至第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス

第五節 收容

第四十六條 船積ノ爲税關ニ送致シ若ハ陸揚シタル貨物ハ其ノ送致若ハ陸揚ノ時ヨリ七十二時以内ニ引取、船積、發送又ハ保税倉庫ニ庫入ヲ爲ササルトキハ税關ハ利害關係者ノ費用及危險ノ負擔ヲ以テ之ヲ收容スルコトヲ得

第四十七條 貨物ヲ收容シタルトキハ三日以内ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第四十八條 貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ税關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受ケヘシ

第四十九條 前條ノ免許ヲ受ケタル時ヨリ四十八時以内ニ貨物ノ引取、船積、發送又ハ保税倉庫ニ庫入ヲ爲ササルトキハ前條ノ申告及免許ハ無効トス

第五十條 貨物收容ノ日ヨリ六箇月以内ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ税關ハ其ノ記號番號種類箇數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以内ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ競賣ニ付シ關稅、敷料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキ之ヲ供託スヘシ

第五十一條 收容貨物腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラス公告シテ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ競賣シタル後之ヲ公告スヘシ

第五十二條 收容貨物ヲ競賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第四章 税關官吏ノ職權

第五十三條 税關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得

第五十四條 税關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第五十五條 税關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 税關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第五十七條 税關官吏ハ船車ニ乗込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 税關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ検査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置場

ヲ封鎖スルコトヲ得

第五十九條 税關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 前條ノ請求アリタルトキハ海軍艦船長ハ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル船舶進行ヲ停止セサルトキハ海軍艦船長其ノ船舶ニ對シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第五章 異議及訴願

第六十一條 關稅ノ賦課ニ關スル税關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ十日以

内ニ文書ヲ以テ税關長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ貨物ヲ引取リタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ税關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申立人

ニ之ヲ交付スヘシ但シ第六十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 從價稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ税關長ハ申告價格

ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其ノ貨物ヲ買上ルカ若ハ評價人ヲシテ評價セシムヘシ

評價人ノ評價額一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ評價價格トス

第六十四條 評價人ハ四人トシ二人ハ税關長之ヲ命シ二人ハ異議者之ヲ選定ス但シ左ニ掲グル者ハ評

價人タルコトヲ得ス

一 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二 第七十四條乃至第七十六條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三 剝奪公權者及停止公權者

四 當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者

異議者ニ於テ評價人ヲ選定シタルトキハ税關長ノ認可ヲ受ケヘシ

第六十五條 評價人ヲシテ評價セシメタルトキハ其ノ評價價格ヲ以テ課稅價格トス但シ評價價格申告

價格ヨリ少ナキトキハ申告價格ヲ以テ課稅價格トス

第六十六條 異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス

第六十七條 異議ノ申立ハ處分ノ執行ヲ停止セス但シ税關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止ス

ルコトヲ得

第六十八條 税關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十九條 訴願ヲ審査セシムル爲委員會ヲ設ク

第七十條 委員會ハ委員過半数出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス決議ハ出席委員ノ過半数ニ依リ之ヲ爲ス可同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第七十一條 委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコトヲ得ス

第七十二條 委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ

第七十三條 委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 罰則

第七十四條 輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 關稅ノ通脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ通脫ヲ圖リ又ハ通脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス

第七十六條 免許ヲ受ケスシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ前二條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條 貨物ト符合セサル積荷目録ヲ提出シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 第十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第十條第十一條第十三條第十五條第十八條第二項第十九條第二十條若ハ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第二十六條乃至第二十八條第四十條若ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條 第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル者ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八十三條 本法ニ依リ沒收スヘキ貨物ハ犯罪當時ノ所有者ノ所有ニ屬スル間ハ之ヲ沒收シ既ニ之ヲ讓渡若ハ消費シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ犯罪者ヨリ徵收ス

第七章 犯罪事件ノ調査及處分

第八十四條 稅關官吏ハ犯罪ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 稅關官吏ハ犯罪ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 稅關官吏ハ犯罪事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯罪者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條 税關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ着用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帶スヘシ

第八十八條 税關官吏ハ臨檢、搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十九條 税關官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ船車倉庫其ノ他ノ場所ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族傭人鄰佑若其ノ在ラサルトキハ其ノ地ノ警察官吏若ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ但シ船車ニ在テハ其ノ役員ヲシテ立會ハシムルコトヲ得
前項ノ親族傭人若ハ鄰佑ハ成年者ナルヲ要ス

第九十條 税關官吏犯罪事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯罪ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目録ヲ作ルヘシ

差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得

第九十一條 臨檢、搜索及物件差押ハ日没ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十二條 税關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得シテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條 税關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ作り立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名スヘシ

立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又ハ署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九十四條 税關長ハ犯罪事件ノ調査ニ依リ犯罪ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ料料ニ相當スル金額、沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ税關ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

第九十五條 犯罪者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間内ニ履行セサルトキハ税關長ハ直ニ告發スヘシ

第九十六條 犯罪者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第九十七條 税關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第八章 補則

第九十八條 船舶修繕ノ爲又ハ巨大重量ノ貨物ニシテ開港ニ於テ積卸シ難キ貨物ヲ陸揚スル爲必要ト認ムルトキハ當分ノ内税關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得

第九十九條 從來ノ開港ノ外開港トナスヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百條 本法ノ期間ヲ定ムルニ日時ヲ以テシタルモノハ其ノ期間中ニ税關ノ休日ヲ算入セス
日ト稱スルハ二十四時ヲ謂ヒ月ト稱スルハ三十日ヲ謂ヒ年ト稱スルハ曆ニ從フ

第百一條 本法ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第百二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(三十二年勅令第三百十七號ヲ以テ三十二年八月四日ヨリ施行スルコトヲ定ム)

第百三條 明治十六年布告第四十號、特別輸出港規則、同二十三年勅令第五十四號、税關法、税關規則、同二十六年法律第十三號、同二十七年法律第二號、同年法律第三號、同二十九年法律第十八號、其ノ他本法ニ牴觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

- 三十二年勅令第三百十九號施行規則
- 三十年法律第十四號關稅定率法(三十二年法律第十八號同第六十九號ヲ以テ表中改正)
- 三十一年勅令第二百二十號輸入物品從量稅則
- 三十二年大藏省令第三十二號稅關官吏タル資格ヲ證明スル證票樣式
- 同年同省令第三十五號收存貨物數料施行
- 同年同省令第三十四號手續料規定
- 同年勅令第三百四十二號開港及貨物指定
- 同年勅令第三百八十三號

●保稅倉庫法 明治三十年三月 法律第十五號

保稅倉庫法

第一章 總則

- 第一條 保稅倉庫ハ輸入手數料未濟ノ貨物ヲ藏置スル所トス
 - 第二條 保稅倉庫ニ藏置ノ貨物ハ其ノ藏置中ハ輸入シタルモノト看做サス
 - 第三條 保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入稅ハ其ノ最初庫入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス
 - 第四條 保稅倉庫ニ若ハ保稅倉庫ヨリ輸入手數未濟貨物ヲ運搬スルトキハ命令ヲ以テ定ムル通路ニ依ルヘシ
 - 第五條 保稅倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ貨物ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム
 - 第六條 保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入ニ關シテハ此ノ法律ニ規定シタルモノノ外「税關法及税關規則」ヲ適用セス
 - 第七條 保稅倉庫ノ貨物藏置期限ハ庫入ノ日ヨリ滿一箇年トス
 - 第八條 保稅倉庫ニ藏置ノ貨物庫移ヲ爲ストキハ其ノ藏置期限ハ總テ最初庫入ノ日ヨリ通算ス
 - 第九條 輸入手數未濟ノ貨物ヲ運搬スルトキハ當該官廳ハ貨主ヲシテ其ノ貨物ニ對スル輸入稅金ヲ假納セシムルコトヲ得
- 前項ノ貨物陸揚申告ノ日ヨリ滿一箇年ヲ過キテ仕向地ニ到達セサルトキハ其ノ輸入稅ヲ徵收ス

第二章 官設保稅倉庫

第十條 官設保税倉庫ニ藏置スル貨物ニ對シテハ記名ノ預證券ヲ發スルモノトス

第十一條 預證券ハ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得

第十二條 預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキハ其ノ旨當該官廳ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ民事訴訟法ニ依リ其ノ證券ヲ無効トスル除權判決アリタルトキハ權利者ニ新證券ヲ交付ス

第十三條 前條第一項ノ届出アリタル預證券ヲ持參スル者アルトキハ持參人及届出人ニ於テ相當ノ手續ヲ爲シ其ノ權利者確定スル迄藏置貨物ノ引渡ヲ停止ス

第十四條 藏置ノ貨物ハ預證券引換ニ交付スルモノトス

第十五條 藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アルトキハ其ノ當事者ハ藏置期限ノ延期ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 藏置期限ヲ經過シテ貨主貨物ヲ引取ラサルトキハ無請求品トシ當該官廳ハ其ノ貨物ノ記號番號、品名、箇數等ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ滿六箇月ヲ經テ之ヲ引取ル者ナキトキハ當該官廳ハ其ノ貨物ヲ競賣ニ付シ輸入税ノ公告料競賣手数料庫敷料其ノ他一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ貨主ニ還付ス

第十七條 藏置ノ貨物腐敗其ノ他ノ事故ニ因リ倉庫又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ當該官廳ハ公告シテ指定ノ期限内ニ其ノ引取ヲ命スヘシ此ノ期限ヲ經過スルモ其ノ貨物ヲ引取ラサルトキハ當該官廳ハ之ヲ滅却スルコトヲ得但シ緊急ノ必要アルトキハ期限内ニ於テモ仍之ヲ滅却スルコトヲ得

得

前項ニ依リ滅却シタル貨物ニ對シテハ輸入税ヲ徵收セス

第三章 私設保税倉庫

第十八條 保税倉庫ヲ設ケ輸入手數未濟ノ貨物ヲ保管スル業ヲ營マムトスル者ハ主務大臣ノ特許ヲ受ケヘシ

第十九條 私設保税倉庫ノ庫主ハ當該官廳ノ指揮監督ヲ承クヘシ

第二十條 私設保税倉庫ノ庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入税ニ付自ラ一切ノ責任ヲ有シ天災事變其ノ他何等ノ事故ニ因ルチ問ハス貨物紛失滅失シ若ハ盜難ニ罹ルモ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十一條 私設保税倉庫ノ庫主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保營貨物輸入税ノ擔保トシテ金銀又ハ國債證券ヲ供託スヘシ

第二十二條 私設保税倉庫ニハ庫主ニ屬スル貨物ヲ藏置スルコトヲ得ス

第二十三條 私設保税倉庫ニ保管スル貨物ニシテ其ノ庫入ノ日ヨリ滿一箇年ヲ過クルトキハ輸入税ヲ徵收ス

第二十四條 私設保税倉庫ノ貨物保管規則及庫敷料ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十五條 當該官吏ハ監督上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ私設保税倉庫ノ貨物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得其ノ貨物運搬中ニ在ルモノハ其ノ所在ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 私設保税倉庫營業ノ特許ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

- 一 庫主其ノ營業ヲ廢シタルトキ
- 二 庫主死亡シタルトキ
- 三 庫主破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 四 特許ノ期限滿了シタルトキ
- 五 主務大臣ニ於テ特許ヲ取消シタルトキ

第二十七條 私設保税倉庫營業ノ特許消滅シタルトキハ當該官廳ハ其ノ旨ヲ公告シ貨主ヲシテ指定ノ期限内ニ其ノ藏置貨物ノ處分ヲ爲サシムヘシ但シ前營業者ノ業務ヲ引繼グカ爲ニ特許消滅後一箇月以内ニ營業ノ特許ヲ出願スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ指定期限ヲ過ルモ貨主其ノ貨物ノ處分ヲ爲ササルトキハ當該官廳ハ之ヲ官設保税倉庫又ハ他ノ私設保税倉庫ノ保管ニ移スヘシ
前項庫移ノ費用ハ貨主ノ負擔トス

第二十八條 營業特許ノ消滅シタル私設保税倉庫ノ庫主又ハ其ノ相續人ハ其ノ藏置貨物ノ引取又ハ庫移ノ了ル迄ハ私設保税倉庫ニ關スル一切ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十九條 第二十七條第二項ニ依リ藏置貨物ノ庫移ヲ爲シタルトキハ貨主ハ其ノ保税倉庫ニ於ケル諸般ノ規則慣例ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ營業ノ特許ヲ取消スコトヲ得

- 一 義務ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキ
- 二 庫主輸入税ノ負擔ニ堪ヘサルノ疑アルトキ
- 三 庫主重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四章 罰則

第三十一條 當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保税倉庫ヨリ貨物ヲ庫出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ貨物ヲ沒收ス若既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第四條ノ規程ニ違背シタル者前項ニ同シ

第三十二條 當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保税倉庫ニ貨物ヲ庫入レスルコトヲ得ス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 主務大臣ノ認可ヲ受ケシテ私設保税倉庫ノ貨物保管規則又ハ庫敷料ヲ定メタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條ノ規程ニ違背シタル者前項ニ同シ

第三十四條 第二十五條ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

附 則

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

三十年大藏省令第九號施行細則

●大藏省證券條例

明治十七年九月
第二十四號布告

大藏省證券條例

- 第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス
- 第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス
- 第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ裁可ヲ受ケヘシ
- 第四條 大藏省證券ハ百圓、五百圓、千圓、五千圓、壹萬圓及拾萬圓ノ六種ニ別チ其仕拂期限ハ十二ヶ月以內トス(二十六年法律第十九號ヲ以テ改正)
- 第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受買賣スルヲ得
- 第六條 大藏省證券ノ仕拂及引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ
- 第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス
- 第八條 大藏省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切

仕拂ヲ爲ササルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及主要ノ印部ヲ檢査シ其真正タルヲ證認シ得ヘキ者ニアラサレハ引換サルヘシ

第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番號及ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證券ノ授受買賣引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條第二項ニ依リテ處斷ス

〔參照〕

十九年大藏省令第二十六號證券發行事務取扱方

●法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル

場合ノ件

明治三十三年三月
法律第五十二號

法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ノ件

法人ニ於テ租税及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ノ件

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租税及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス
前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四類 軍事

●徵發令

明治十五年八月
第四十三號布告

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及行軍ノ軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發スヘキモノノ種類ニ依リ徵發區(會社モ之ニ准ス)ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 第十二條第一項ハ

府縣

徵發令

- 二 第十二條第二項及第三項ハ 郡區
- 三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村
- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ汽車ハ 會社
- 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル
- 第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付スヘシ
- 第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス
- 第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定スヘキモノトス
- 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲スヘシ
- 第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其ノ他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給スヘキモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付ス可シ
- 第十二條 徵發ス可キモノノ左ノ如シ

- 一 米麥秣莖鹽味鹽醬油漬物梅干及ヒ薪炭
 - 二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類器具
 - 三 人夫
 - 四 宿舍厩園及ヒ倉庫
 - 五 飲水石炭
 - 六 船舶
 - 七 鐵道汽車
 - 八 演習ニ要スル地所
 - 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ時變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲グルモノノ外徵發ス可キモノノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス
- 一 造船所工作所及軍事ノ工作ニ要スル材料器具
 - 二 職工鑛夫洗濯人ノ類
 - 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ繙帶具
 - 四 水車搗春ノ類
 - 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所有ノ車馬
- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル府署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及其所屬館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
- 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋
- 六 博物館書籍館
- 七 病院盲啞院育兒院
- 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
- 九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノノ使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其ノ差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ超ユルコトヲ得ス但シ戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業上必要ナルモ旅店等ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十一條 宿舍ヲ定メタル後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス既圍倉庫モ亦同シ

第二十二條 宿舍既圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用ス

ルコトアルヘシ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルコトヲ例トス但時宜ニ依リ各箇ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲グルモノヲ操業者ト各箇ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各箇ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲グルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ超ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ附ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事、縣令、郡區長、戶長、停車場長、船舶會社ノ店長ヨリ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ヲ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セザ

ルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戶長ニ届出ツ可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ超ユ可カラス若シ其期限ヲ超ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶

七日間

二 地所

評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者ト各箇ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ賃價又ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲グルモノハ買上タルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セザルトキハ評價委

員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノノ外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ

准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就

キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊實費及ヒ船舶ノ損料トス其

損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料

トス但船橋及ヒ艇船ニ充テタルモノノ賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノノ外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料、物件ニハ其地平常ノ代價

若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限

リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償

ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ

第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一

月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場船舶會社ノ店長其處置ヲ爲ササルモ

ハハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ二十

圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲安ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シ

タルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

〔參照〕

十五年大政官第二十六號布達徵發事務條例

三十年陸軍省令第二十七號馬匹徵發事務規則

●軍機保護法

明治三十二年七月
法律第四百四號

軍機保護法

- 第一條 軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收集シタル者ハ重懲役ニ處シ其ノ情輕キ者ハ一等ヲ減ス
- 第二條 職務ニ因リ軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得願有シタル者其ノ秘密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ漏洩交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ有期徒刑ニ處ス
- 第三條 偶然ノ理由ニ因リ軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得願有シタル者其ノ秘密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ傳説交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ輕懲役ニ處ス
- 第四條 許可ヲ得スシテ軍港要港防禦港又ハ保壘砲臺水雷衛所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ヲ測量摸寫攝影シ又ハ其ノ收況ヲ錄取シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 因テ第一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重キニ從テ處斷ス

第五條 許可ヲ得ス又ハ詐僞ノ所爲ニ因リ許可ヲ得テ保壘砲臺水雷衛所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物内ニ入りタル者亦前條ノ例ニ同シ

第六條 本法ニ規定シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條 本法ノ罪ヲ犯サントシテ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ前條ノ刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第七條 本法ノ罪ヲ犯シ因テ財物ヲ得タル者ハ其ノ財物ヲ沒收シ既ニ費消シタルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第八條 本法ハ刑法第二編第二章第二節外患ニ關スル罪陸軍刑法第二編第一章反亂ノ罪海軍刑法第二編第一章反亂ノ罪ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

●徵兵令

明治二十二年一月
法律第一號

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス(二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四箇

月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス(同上)

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四箇月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス(同上ヲ以テ本條追加)

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

第一國民兵役ハ後備兵役及ヒ第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及ヒ第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス(同上ヲ以テ第五條第六條トシ及ヒ改正)

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアルヘシ(同上ヲ以テ第六條第七條トシ第九條マテ順次ニ繰下ク)

第八條 重罪ノ列ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材、藝能、職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ(同上ヲ以テ改正)

海軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス(同上)

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁〔近衛師團ニ編入スル者ヲ除ク〕ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス(同上)

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアルヘシ但シ常備兵役ノ至期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム(同上ヲ以テ本條追加)

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得(同上ヲ以テ第十條第十二條トシ第十四條マテ順次ニ繰下ク)

第十三條 滿十七歳以上二十八歳以下ニシテ官立學校(小學科及撰科等ノ學科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官

給スルコトアルヘシ(二十二年法律第二十九號、二十六年法律第四號、二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

一年志願兵ノ豫備役後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六箇月間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス(二十六年法律第四號ヲ以テ改正)

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス(二十二年法律第二十九號ヲ以テ本項ヲ追加シ二十六年法律第四號、二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行方正ナルモノハ歸休ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス(二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

第十七條 第一補充兵及ヒ海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス但第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス(同上ヲ以テ本條追加)

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス(同上ヲ以テ第十六條ヲ第十八條トシ第二十二條マテ順次ニ繰下ク)

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ廢疾又ハ不具ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第二十條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ勾留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過グルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ

本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲グル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ依リ滿二十八歳迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歳迄ニ止ミ又ハ二十八歳ヲ過グルモ仍ホ止マサル者ハ押籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス(二十二年法律第二十九號、二十六年法律第四號、二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

外國ニ在ル者(朝鮮國ニ在ル者ヲ除ク)ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歳迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラシテ之ヲ徵集シ三十二歳ヲ過グル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此ノ限ニ在ラス(二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵後備兵ニ在ルト第一補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡點呼ノ爲メ召集スルコトナシ(同上)
法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章

雜則

(二十八年法律第十五號ヲ以テ舊ト第四章豫備徵員トアリタルヲ削リ第五章第六章第七章ヲ順次ニ繰上グ)

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ又第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ミ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ(戸主ニ非サル者ハ其戸主ヨリ)本籍ノ市町村長ニ届出可シ但ニ

十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス(同上ヲ以テ改正)

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス(同上)

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身躰ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月一日(第十三條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算人)ヨリ陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ(同上)

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第五章 罰則

第六節 兵 令

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲ササル者及正當ノ事故ナクシテ身軀ハ検査ヲ受ケサル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身軀ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限り三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ漸チ以テ之ヲ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同上)

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス(同上)

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過グルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過グルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵收猶豫ニ屬シタル者ハ徵收ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過グルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過グルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過グルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得(二十六年法律第四號ヲ以テ改正)

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス)ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

第一項第二項ノ届出ヲ爲ササル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ(二十二年法律第二十九號ヲ以テ本條中改正追加)

附 則 (二十八年法律第十五號ヲ以テ追加)

此ノ法律(即チ改正追加ノ分)ハ明治廿八年四月一日ヨリ施行ス但現今ノ豫備徵員ハ從前ノ規程ニ依ル

〔參照〕

- 二十九年勅令第百十二號徵兵事務條例(次項)
- 三十一年同第四十一號徵兵事務條例補則
- 二十九年陸軍省令第十號徵兵事務條例施行細則
- 二十八年勅令第百二十六號北海道ニ施行ノ件
- 三十二年陸軍省第二十六號陸軍身軀検査手續
- 二十五年同省令第三號徵兵検査規則
- 二十六年勅令第七十三號陸軍一年志願兵條例
- 二十八年同第十號國民軍條例

●徵兵事務條例

明治二十九年三月
勅令第百十二號

徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市(北海道ニ在ツテハ區)ヲ以テ一區ト爲ス
一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス
數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其ノ島廳ヲ置クモノ亦同シ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ検査區ニ分子區ヲ以テ検査區ト爲ス

第四條 步兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區ヨリ其ノ他ノ兵員ハ其ノ師管各聯隊區ヨリ徵集ス但要員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ聯隊區若クハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得

警備隊ノ兵員ハ其ノ警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル聯隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官、警備隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵署徵兵官

徵兵事務條例

トス

第六條 總理徵兵官ハ内務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

北海道ニ於テハ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内徵募區毎ニ聯隊區司令官及島司郡市長(北海道ノ區ニ在テハ區長)ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司郡長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首坐トシ其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ検査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯隊區徵兵官ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ抽籤事務ヲ除クノ外其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

第九條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ東京市、京都市、大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官、市參事會員タル府ノ書記官及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ其ノ區内抽籤事務ヲ執行ス

第十條 第八條第九條ニ掲クル徵兵官ノ外聯隊區内徵募區(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ検査區)毎ニ聯隊區徵兵參事員警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク

第十一條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第二十二條ニ當ル徵集延期及徵集免除

並ニ明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ノ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十二條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充ツ但市ニ於テハ其ノ市名譽職參事員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム

東京市、京都市、大阪市ノ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其ノ區内ニ住スル市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ四名ヲ選舉シ之ヲ定ム其ノ任期ハ市會議員ノ例ニ依ル

島廳ヲ置ク島嶼ノ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ於テ各町村議員中ヨリ四名ヲ選ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其ノ任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル

北海道ノ郡又ハ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ徵募區毎ニ四名トシ北海道廳長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 毎年徵募事務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ヲ置ク

師管徵兵醫官ハ師管内徵兵身體検査ニ係ル事ヲ總管シ聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ徵兵身體ノ検査ニ從事ス

第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官附軍醫一名ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トス

第十五條 毎年徵募事務執行中ハ聯隊區徵兵署、警備隊區徵兵署及聯隊區聯合徵兵署ニ事務員ヲ置キ

該徵兵署ノ庶務ニ從事セシム

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊書記二名及島廳郡

市書記(京都市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區書記)二名若クハ三名ヲ以テ之ニ充ツ

聯隊區聯合徵兵署事務員ハ聯隊區書記二名府屬二名及各區書記二名若クハ三名ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 毎年徵募事務執行中ハ地方醫師若干名ヲ以テ徵兵醫官補助員トシ北海道廳長官府縣知事之

ヲ命ス

徵兵醫官補助員ハ徵兵醫官ノ指揮ヲ受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十八條 毎年徵集スヘキ現役兵及補充兵ノ員數ハ上裁ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管ニ配賦ス

第十九條 師團長ハ第十八條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又ハ警備隊區ニ聯隊區司令官又

ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十條 現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募

第二十一條 町村長(町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長以下同シ)ハ毎年戶籍簿ニ據リ徵兵適齡者

ヲ取調ヘ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島

司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署

提出スヘシ

市長(京都市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區長以下同シ)ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ

作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ各徵募區及検査區ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク

但土地廣濶壯丁多數ノ徵募區ニ於テハ二箇所以上ノ地ニ逐次開設スルコトヲ得

京都市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤執行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合徵兵署ヲ設ク

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署開設ノ日割ヲ定メ聯隊區司

令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ

聯隊區聯合徵兵署開設ノ日割ハ聯隊區司令官ヨリ府ノ書記官ニ協議シ之ヲ定メ聯隊區司令官ハ師團

長ニ府ノ書記官ハ府知事ニ申報シ且府ノ書記官ハ徵兵署開設ノ日割及其ノ場所ヲ區長ニ達スヘシ

島司郡市長ハ検査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員

ニ通知シ且其ノ管内ニ告示スヘシ

第二十四條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ

其ノ検査ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十五條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十六條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第二十七條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作ルヘシ

第二十八條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ於テ抽籤總代人ノ之ヲ爲スモノトス

抽籤總代人ハ徵募區又ハ検査區毎ニ籤丁ノ選ヲ以テ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第二十九條 前條ノ徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ通テ作ルヘシ

第三十條 抽籤終ルトキハ抽籤名簿及徵集名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ領シ抽籤名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ハ島司郡市長之ヲ領シ島廳、郡市役所

(東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區役所以下同シ)ニ備置クヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ市長ノ領スヘキ抽籤名簿ハ府ノ書記官之ヲ領シ府廳ニ備置クヘシ

第三十一條 各徵募區ノ抽籤終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第十九條ノ配賦ニ基キ現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿、補充兵名簿及要員超過名簿ヲ作ルヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿ヲ各聯隊長(聯隊長ヲ爲ササル隊ニ在テハ其ノ隊長)及海兵團長ニ交付シ且現役兵ニ徵募スヘキ者及補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ府ノ書記官ニ通知スヘシ
抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置キ要員超過名簿ハ島司郡市長ニ交付シ島廳郡市役所ニ備置クヘシ

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官第三十一條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官各其ノ證書ヲ附與ス但徵集免除ノ者並ニ要員ニ超過シタル者ニハ證書ヲ附與セス

第三十四條 徵募事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上スヘシ

第五章 裁決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵募、補充兵編入、要員超過、徵集免除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之

ヲ爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ爲ス

第三十八條 壯丁若クハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條及明治二十八年勅令百二十六號第二條ニ關スル聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ノ執行ヲ停止セズ

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期日ヲ過クルモノハ受理セズ
第三十九條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其ノ訴願書ニ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戶主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ差出スヘシ

第四十條 徵兵官第三十九條ノ訴願書ヲ受領シタルトキハ之ニ前裁決ニ關スル書類ヲ添ヘ上級ノ徵兵官ニ差出スヘシ

第四十一條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サズ

第六章 現役兵及補充兵

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年六月一日トシ砲兵輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年四月一日第三期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ四期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年三月一日第三

期ハ同年六月一日第四期ハ同年九月一日トス

仙臺、札幌、弘前、金澤ノ各衛戍地ニ於テハ砲兵輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年四月一日第二期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年三月一日第二期ハ同年六月一日第三期ハ同年九月一日トス

戰時若クハ事變ニ際シテハ第二期以下ノ入營期日ヲ變更スルコトヲ得

第四十三條 現役兵入營ノトキハ先ツ聯隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ入營兵引率員之ヲ入營地ニ引率シ(聯隊區司令部所在ノ入營地ニ在テハ聯隊區司令官ヨリ直ニ)當該隊長ニ交付ス但入營兵五人未滿ナルトキハ直ニ入營地ニ單行セシム

海軍現役兵ハ其ノ集合地ニ引率シ入營兵受領員ニ交付スルモノトス但入營兵引率員出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許スヘシ

其ノ延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長ノ與書證明ヲ受ケ其ノ父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍(戶籍上本人ノ出入モ含有ス以下同シ)スルモ所屬ノ隊籍ヲ變更セズ

徵兵令第二十七條ニ當リ翌年同ト爲リタル者ハ身體検査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノトス但シ第四條ノ區域外ニ轉籍シタル者ハ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム

第四十六條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ一時服役ニ堪ヘサル者又ハ常備後備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ徵募區同兵種ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充シ若シ其ノ徵募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區内他ノ徵募區ヨリ補充ス其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム但警備隊諸兵及砲兵輸卒、輜重輸卒ニシテ入營スヘキ月ノ二十日迄ニ本文ノ事故ヲ生シタル者アルトキハ次期入營スヘキ者ヲ繰上ケ入營セシム其ノ最終期ニ在テハ前期ニ繰上ケタル缺員ト其ノ期ノ缺員ハ第一補充兵ヲ以テ補充ス

第四十七條 現役兵入營前痼疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ兵役ヲ免ス但徵兵令第二十七條ニ當リ翌年同ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在テス

第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス
其ノ願書ニハ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ現役兵ノ戶主ニ名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊司令官又ハ警備隊司令官ニ送付スヘシ
第四十九條 現役兵入營前及補充兵(補充兵證書附與後其ノ年十一月三十日以前ノ者以下同シ)轉籍シタルトキハ十四日以内ニ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ但町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十條 現役兵入營前及補充兵寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ復歸シタルトキ亦届出ヘシ但町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ
本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七章 雜則

徵兵事務條例

第五十一條 徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ願書ニ戶主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ海兵團ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ但軍隊又ハ海兵團遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得
検査ノ爲メ往復ノ旅費ハ自辨トス

第五十二條 第五十一條ニ依リ服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入管前本籍地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第五十三條 他ノ徵募區ニ寄留シ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ三月一日迄ニ本籍地ノ島司郡市長ニ願出ヘシ

島司郡市長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモノトス

島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ之ヲ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

本條ノ願出己ムヲ得サル事故ノ爲メ三月一日ヲ過クルモノハ島司郡市長ヨリ本人寄留地ノ島司郡市長ニ協議シ徵募上故障ナキモノニ限り許可スヘシ

第五十四條 徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ三月一日迄ニ(三月一日後抽籤迄ニ事故ノ生シタル者ハ其ノ都度以下同シ)聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ但其ノ事故二年以上繼續スル者ハ毎年願出テ其ノ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ添ヘ届出ヘシ

前項ノ願書及届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモノトス

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ

公使領事及貿易事務官ヲ置カサル國ニ在ル者ハ其ノ徵集猶豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ

公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者ト雖徵集猶豫願書ヲ差出ストキ未ダ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ得サルトキハ之ニ換フルニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ添ヘ差出シ置キ追テ證明書ヲ差出スコトヲ得

本條ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモノトス

第五十六條 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

前項ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモノトス

第五十七條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ届書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ届書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ受領ノ日ヨリ三日以内ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出スヘシ

市長ハ前項ノ届書ヲ聯隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ

第五十八條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵（年齢十九歳以下ノ者ヲ除ク）出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司郡市長ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

島司郡長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス
本條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ其ノ届書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス
本條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徴兵署ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、現役兵入營ノ旅費、徴兵參事員ノ手當金、旅費、徴兵醫官補助員ノ給料、旅費ハ官給ス

第六十一條 第七師團ノ兵員ハ其ノ師管内徴兵令施行地ヨリ徴集ス但要員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長、地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 徴兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留地最寄ノ徴募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ

得其ノ願出手續及取扱ハ第五十三條ノ例ニ準ス

第六十四條 徴兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ翌年ノ徴集ニ應セシム但年齢二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

第六十五條 近衛師團ノ兵員ハ當分第一師管ヨリ徴集ス

第六十六條 聯隊區徴兵參事員又ハ警備隊區徴兵參事員ハ未タ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其ノ郡内ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ選舉人被選舉人資格、選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル

第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

〔参照〕

二十二年法律第一號徴兵令（前項）

●陸軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者届出方

明治二十九年七月 陸軍省令第十六號

陸軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者届出方

一、 年齢二十歳未満ノ者ニシテ陸軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリタルトキハ其ノ戸主ヨリ二十歳ト

陸軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者届出方

ナル年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ市町村長（東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ區戸長及之ニ準スヘキ者以下同シ）ニ届出ヘシ年齢二十歳以上ノ者ニシテ徵兵事務條例ニ依リ終決ノ處分ヲ受ケサル者ニ在テハ學生生徒トナリタル日ヨリ十四日以内ニ届出ヘシ

二、前項届出ヲ爲シタル者傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ學生生徒ヲ免セラレ豫備役又ハ後備役編入、常備後備ノ役又ハ兵役免除ノ處分ヲ受ケサルトキハ本人ヨリ十四日以内ニ市町村長ニ届出ヘシ但シ年齢二十歳未滿ニシテ本文兵役ニ關スル處分ヲ受ケタル者亦同シ

三、陸海軍兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（年齢二十歳前後ヲ問ハス）ニシテ將校同相當官准士官下士又ハ兵卒トナリタルトキハ本人ヨリ十四日以内ニ市町村長ニ届出ヘシ

四、第一項及第二項（但書ヲ除ク）ハ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ハ科料ニ處ス

●屯田兵後備役兵村及下士兵卒監視規則

明治二十九年六月
勅令第百三十九號

屯田兵後備役兵村及下士兵卒監視規則

第一條 屯田後備役各兵村ニ兵村監視ヲ置キ其ノ兵村ノ開墾耕稼ニ關スル事務及下士兵卒ノ服役ニ係ル事務ヲ取扱ハシム

兵村監視ハ後備役屯田兵各兵科曹長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二條 兵村監視ノ職掌開墾耕稼ニ係ルモノハ師團長ニ下士兵卒ノ服役ニ係ルモノハ聯隊區司令官ニ

屬ス

第三條 兵村監視ハ兵村ノ下士兵卒ノ動作及開墾耕稼ニ關スル事ヲ監視シ師團長ノ命令ヲ傳達シ又下士卒身上異動其ノ他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ聯隊區司令官ニ報告ス

第四條 屯田後備役下士兵卒三日以上十三日以下旅行セントスルトキハ兵村監視ノ承認ヲ受ケタル後

其ノ出發時日ヲ届出テ歸村シタルトキハ三日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ

第五條 屯田後備役下士兵卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス

ヘキ者（成年以上ノ男子ニ限ル）ヲ定メ兵村監視ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出テ許可ヲ受ケタル後其ノ出發時日ヲ兵村監視ニ届出テ歸村シタルトキハ十四日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ其ノ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦本條ニ依リ許可ヲ受ケヘシ

第六條 屯田後備役下士兵卒戶籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ

第七條 屯田後備役下士兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若ハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其願書ニ近郷戶主二名ノ證明ヲ受ケ兵村監視ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第八條 屯田後備役下士兵卒ヲ文官ニ採用セントスルトキハ當該官廳長官ヨリ第七師團長ノ承認ヲ受ケルモノトス

屯田後備役下士兵卒ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカササル職務ヲ奉スル爲メ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ要スルトキ亦前項ニ同シ但其ノ事故止ミタルトキハ第七師團長ニ

屯田兵後備役兵村及下士兵卒監視規則

通知スヘシ

第九條 第四條又ハ第五條ノ規程ニ違背シ及第六條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 第五條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十一條 屯田後備役下士兵卒師團長ノ命令ニ服從セス又ハ兵村監視ノ職務ヲ妨害スル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

附 則

第十二條 本規則ハ隊伍ニ編入セサル屯田豫備役下士兵卒及其ノ兵村ニ適用ス但此場合ニ在テハ兵村

監視ハ豫備役屯田各兵科曹長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第十三條 本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●陸軍服役條例

明治二十九年六月
勅令第三百三十八號

陸軍服役條例

第一章 將校ノ服役

第一款 現役

第一條 現役將校ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役年限年齢ニ滿ツル迄服役セシム但別ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 將校ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ(三十二年勅令第四百三十六號ヲ以テ改正)

中將

六十五歲

少將

六十歲

憲兵大中佐

五十七歲

步騎砲工輜重兵大中佐

五十四歲

憲兵少佐

步騎砲工輜重兵少佐

五十一歲

憲兵大尉

步騎砲工輜重兵大尉

四十八歲

憲兵中少尉

步騎砲工輜重兵中少尉

四十五歲

第三條 現役年限年齢ニ滿ツルモ他人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ル者又ハ補充上必要アル者ハ留任ヲ命スルコトアルヘシ(同上)

第四條 現役年限年齢ニ滿ツルモ戰時若クハ事變ニ際スルトキ又ハ航海中或ハ外國駐留中ハ現役期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第五條 現役年限年齢ニ滿タサルモ服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ將官ハ上諭ニ依リ上長

陸軍服役條例

官下士官ハ陸軍大臣旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

第六條 現役將校傷痍若クハ疾病ニ由リ職務若クハ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ順序ヲ經テ休職又ハ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第七條 休職停職ノ將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス他ノ師管ニ寄留スル者ハ寄留地所管師團長ノ監督ヲ受ケ

第八條 休職停職ヲ命セラレタル者歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但歸郷旅行一箇月以上ヲ要スルトキハ到着日ヲ豫定シ出發前本籍所管師團長ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スル者ハ本籍市町村(東京市京都市大阪市ニ在テハ區以下同シ)ニ於テ軍衙ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ本籍所管ノ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ(同上)

前項ノ滞在地若クハ寄留地外ノ師管ニ係ルトキハ滞在若クハ寄留ノ當日ヨリ十四日以内ニ其ノ地所管ノ師團長ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第九條 休職停職ノ將校十四日以上旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ本籍市町村ニ於テ軍衙ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ(同上)

前項ノ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄

留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ旅行又ハ寄留セント欲スル者ハ其ノ期限ヲ豫定シ陸軍大臣ニ願出ツヘシ(同上)

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者出發セントスルトキ及歸朝シタルトキハ第一項ニ準シ届出ツヘシ(同上ヲ以テ追加)

第十條 休職停職ノ將校寄留地所管ノ兵籍ニ轉セント欲スル者ハ師團長ニ願出テ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ寄留地所管ノ師團長ニ届出ヘシ

寄留地所管ノ兵籍ニ轉シタル者ニ付テハ本條例ノ規定ニ於テ寄留地ヲ本籍地ト看做ス(同上ヲ以テ追加)

第十一條 休職停職ノ將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ師團長ニ届出ヘシ但自己ノ身上ニ係ル異動ハ寄留地所管ノ師團長ニ届出ヘシ

第十一條ノ二 傷痍若クハ疾病ニ由リ休職ト爲リタル者全癒シタルトキハ陸軍醫官若ハ地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ届出ヘシ(同上)

第十一條ノ三 休職停職ノ將校ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戸籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主(本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若ハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但シ他ノ師管ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長（東京市京都市大阪市ニ在テハ區長以下同シ）ヨリ聯隊區司令官（警備隊區ニ在テハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官以下同シ）ニ通知スヘシ（同上）

第十一條ノ四、 休職停職ノ將校重罪輕罪（罰金ヲ除ク）ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主（本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者）ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ（同上）

第十二條 休職停職ノ將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願届書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校又ハ其ノ戶主若ハ家事擔當者ヨリ師團長ニ差出ス願届書ハ市町村長及區聯隊司令官ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願届書ハ市町村長聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ但シ佐官以下ノ將校ヨリ第十一條ノ二ニ依リ差出ス願届書ハ現住地所管ノ聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ（同上ヲ以テ改正）

第十二條ノ二、 第八條第一項及第二項第九條第一項及第四項第十條第十一條ノ三第十一條ノ四ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス（同上ヲ以テ追加）

第十二條ノ三、 第八條及第九條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ軍衛ノ命令ヲ通報セス若ハ其ノ通報ヲ遅緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處シ又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス（同上）

第十三條 本款ハ現役將校相當官ニ適用ス

第十四條 將校相當官ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ（同上ヲ以テ改正）

監督總監	軍醫總監	六十五歲
監督監	軍醫監	六十歲
一、二等監督	一、二等軍醫正	五十七歲
三等監督	藥劑監	五十四歲
三等軍醫正	獸醫監	五十一歲
監督補	一等軍醫	五十一歲
一等藥劑官	一等獸醫	五十一歲
一等軍吏	藥長	五十一歲
二、三等軍醫	二、三等藥劑官	四十八歲
二、三等獸醫	二、三等軍吏	四十八歲

第十五條 豫備役後備役將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス

第十六條 豫備役將校ノ服役期限ハ現役年限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トス

第十七條 後備役將校ノ服役期限ハ豫備役ヨリ轉入シタル者ハ轉入後五箇年現役年限年齢ニ滿チ後備役ニ轉入シタル者ハ現役ヲ退キタル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トシ後備役准士官下士ヨリ士官ニ進級シタル者ハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス

第十八條 豫備役後備役將校ノ服役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ航海中或ハ外國駐留中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十九條 第三條第四條第十八條ニ依リ留任ヲ命シ又ハ服役ヲ延期シタル者ト雖服役年期ノ計算ハ留

任セサル者又ハ服役ヲ延期セサル者ニ同シ

第二十條 豫備役後備役將校服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用キスシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ退役ニ入ルモノトス

第二十一條 豫備役後備役將校ハ滿期後引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定メ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第二十二條 豫備役後備役將校傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第二十三條 豫備役後備役將校ハ現役將校同等官ノ次席トス

第二十四條 豫備役後備役將校ハ召集ニ應スルトキ及朝拜參賀公私ノ儀式祭典其ノ他兼アル宴會等ノ場所ニ列スルトキハ陸軍ノ制服ヲ著スルモノトス但文官ニ任セラレタル者ハ召集ノ場合ヲ除クノ外文官ノ制服ヲ著スルモ妨ケナシ

第二十五條 豫備役後備役將校ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集ス

第二十六條 豫備役後備役將校ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者、外國ニ在ル者及市町村長、助役、收入役ト爲ル者ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ(同上) 法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第二十七條 豫備役後備役將校ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サント欲スル者ハ師團長ニ願出テ其ノ許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後(寄留後出願ノ者ハ指令書受領後)三日以内ニ豫備役後備役編入年、現官ニ任セラレタル年月及嘗テ勤務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ寄留地ノ師團長ニ届出ヘシ

第二十八條 豫備役後備役將校ニシテ止ムテ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其ノ事實ヲ證明シ師團長ノ許可ヲ請フヘシ

第二十九條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル將校歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ歸郷旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ(同上)

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第三十條 豫備役後備役將校十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ(同上)

前項ノ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ師團長ニ届出ヘシ(同上)

第三十一條 豫備役後備役將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但他ノ師管ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出ヘシ

第三十二條 豫備役後備役將校ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

第三十三條 豫備役後備役將校ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主(本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ師管ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出ヘシ(同上)

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ(同上)

第三十四條 豫備役後備役將校重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主(本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三十五條 豫備役後備役將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校又ハ其ノ

戶主若ハ家事擔當者ヨリ師團長ニ差出ス願書ハ市町村長及聯隊區司令官ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ市町村長聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ(同上)

第三十六條 第二十七條第二十九條第一項及第二項第三十條第一項及第三項第三十一條乃至第三十四條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十七條 第二十九條第三十條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三十八條 本款ハ豫備役後備役ノ將校相當官ニ適用ス

第二章 准士官ノ服役

第三十九條 本章ニ於テ准士官ト稱スルハ步騎砲工輜重兵特務曹長、砲工兵上等工長及樂長補ヲ謂フ

(同上)

第四十條 (同上ヲ以テ削除)

第四十一條 准士官ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ(同上ヲ以テ改正)

砲工兵上等工長

五十一歳

樂長補

四十八歳

步騎砲工輜重兵特務曹長

三十四歳

陸軍服役條例

第四十二條 現役年限年齢ニ滿タサルモ服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

第四十三條 特務曹長ハ現役年限年齢ニ滿タサルモ正當ノ事故アルトキハ陸軍大臣本人ノ願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトヲ得(同上)

第四十四條 特務曹長ハ現役年限年齢ニ滿チ現役ヲ退キタルトキハ豫備役ニ豫備役終ルノ後ハ後備役ニ服セシム

第四十五條 豫備役後備役特務曹長ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ豫備役滿期後五箇年トス(同上)

第四十六條 豫備役後備役砲工兵上等工長及豫備役後備役樂長補ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス(同上)

第四十七條 准士官ノ現役豫備役後備役ニ關スル諸般ノ事項ニ就テハ第一章(第二條第五條第十三條第十四條第十六條第十七條第十八條ヲ除ク)ノ規定ヲ適用ス但第二十一條ノ願書ハ師團長ニ差出スモノトス(同上)

第四十八條 豫備役後備役ノ下士ヨリ特務曹長ニ進級シタル者ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第

十一年目ノ三月三十一日迄トス(同上)

第三章 下士ノ服役

第一款 通則

第四十九條 下士ノ服役ハ十二箇年四箇月トシ之ヲ分テ現役豫備役及後備役トス其ノ服役ヲ終リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシム

第五十條 各兵役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ學アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其ノ期間ヲ延ハスコトアルヘシ其ノ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

第五十一條 現役ヲ離ルトキ服役十二箇年四箇月ヲ過キ豫備役後備役ニ服セサル者及事故ニ由リ常備後備ノ役若クハ兵役ヲ免スル者ハ同時ニ其ノ官ヲ免シ後備役滿期ノ者ハ別ニ辭令ヲ用キスシテ其ノ官消滅スルモノトス

第二款 現役

第五十二條 現役下士ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム

第五十三條 隊附現役下士ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス(同上)

憲兵科下士、計手及軍樂部下士ハ總テ之ヲ營外ニ居住セシメ諸工長及衛生部下士ハ人員ヲ限リ營外ニ居住セシム

警備隊附下士ニシテ其ノ警備隊區在籍ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第五十四條 現役下士ノ服役規限ハ左ノ如シ(同上)

- 一 各兵科及衛生部下士候補生(兵卒ヲ除ク)ヨリ下士ニ任セラレタル者ハ任官ノ月ヨリ四箇年
- 二 憲兵科下士ハ前服役年月ヲ通算シ六箇年
- 三 砲兵工長、蹄鐵工長、縫工長、靴工長候補生(兵卒ヲ除ク)ヨリ諸工長ニ任セラレタル者ハ任官ノ月ヨリ四箇年
- 四 軍樂部下士ハ樂手補ヲ命セラレタル月ヨリ五箇年
- 五 步騎砲工輜重兵科上等兵及看護手ヨリ下士ニ任セラレタル者ハ入隊ノ月ヨリ三箇年

前項第一號及第四號ニ當ル者ヲ長期下士トシ第五號ニ當ル者ヲ短期下士トス

第五十五條 下士ハ現役滿期ノ後現役年限年齡ニ滿ツル迄ハ數次再服役ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 下士ノ現役年限年齡ハ左ノ如シ(同上)

- 諸工長 四十八歲
- 憲兵科下士 軍樂部下士(縫靴工長ヲ除ク) 衛生部下士 軍吏部下士 四十五歲
- 步騎砲工輜重兵科下士(諸工長ヲ除ク) 四十歲

第五十七條 再服役年期ハ一箇年以上トス但シ第五十四條第五ニ當ル者ニ在テハ初度ニ限リ三箇年ヲ以テ一期トス(同上)

前項但書ニ當ル者ハ之ヲ長期下士トス

第五十八條 再服役ハ中隊ニ在テハ其ノ所屬中隊長(憲兵分隊ニ在テハ分隊長、軍樂隊ニ在テハ該隊長以下同シ)ニ出願シ該中隊長ハ順序ヲ經テ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請フヘシ

(同上)

諸本部諸官辭ニ在テハ直屬長官ニ出願スヘシ但直屬長官聯隊長ト同等ノ權ナキトキハ聯隊長同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請フヘシ

衛生部軍吏部下士ノ再服役ハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ當該監督部長若クハ軍醫部長ニ豫メ協議スヘシ

再服役ヲ許可シタルトキハ誓約書ヲ中隊長若クハ直屬長官ニ出サシム

第五十九條 再服役許可ノ後轉隊若クハ轉職シタルトキハ其ノ誓約書ヲ新所屬ノ中隊長若クハ直屬長官ニ移スヘシ

第六十條 現役中本人ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免スルコトヲ得

第六十一條 現役中傷痕若クハ疾病ニ由リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

第六十二條 現役中傷痕若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第六十三條 憲兵下士ニシテ素行修マラサル者ハ特ニ現役ヲ免ス

第六十四條 憲兵下士其ノ職務ヲ辱シムルニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キモノハ陸軍懲罰令ノ規定ニ拘ハラス官ヲ免スルコトヲ得

第六十五條 現役ヲ離ルルトキ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七年四箇月ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二年四箇月ニ滿サル者ハ後備役ニ服セシム(同上)

第六十六條 第六十二條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム(同上)

下士ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ官ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ第六十四條ニ依リ官ヲ免セラレタル者ハ歩騎砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ一等卒ト爲シ憲兵科及各部ニ在テハ前兵科(前兵科ナキ者ハ歩兵科)ノ一等卒ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ滿タサル者ハ三箇年ニ滿ツル迄現役ニ服セシメ三箇年ヲ過クル者ハ前條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ十二箇年四箇月ヲ過クル者ハ第一國民兵役ニ服セシム(同上)

第六十七條 現役下士ニシテ其ノ服役七箇年四箇月若クハ十二箇年四箇月ノ後尙豫備役若クハ後備役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ年數ヲ定メ現役滿期ノ際聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ願出ヘシ但シ豫備役ハ現役定限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日後備役ハ滿五十歳トナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス(同上)

聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官前項ノ服役ヲ許可シタルトキハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ

通知スヘシ

第六十八條 第六十條乃至第六十四條ニ當ル者アルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免ス但シ團長及之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自ラ之ヲ處分ス(同上ヲ以テ第二項ヲ削ル)

第六十九條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ其ノ刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役服役年數ニ算入セス

第三款 豫備役及後備役

第七十條 豫備役後備役下士ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第七十一條 豫備役下士ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月トス

第七十二條 後備役下士ノ服役期限ハ豫備役滿期ノ後五箇年トス但七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第七十三條 豫備役後備役下士服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ辭令ヲ用キシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第七十四條 豫備役後備役下士滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ但シ豫備役ハ現役定限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日後備役ハ滿五十歳トナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス(同上)

第七十五條 豫備役後備役下士傷痕若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷痕若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一項ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ豫備後備役又ハ兵役ヲ免ス但シ召集中ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官第六十八條ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ(同上ヲ以テ本項追加)

第七十五條ノ二 豫備役後備役憲兵下士召集中其ノ職務ヲ辱シムルニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キモノハ陸軍懲罰令ノ規定ニ拘ラス官ヲ免スルコトヲ得(同上ヲ以テ追加)

第七十五條ノ三 豫備役後備役下士ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ官ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ前條ニ依リ官ヲ免セラレタル者ハ歩騎砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ一等卒ト爲シ憲兵科及各部ニ在テハ前兵科(前兵科ナキ者ハ歩兵科)ノ一等卒ト爲ス(同上)

第七十六條 豫備役後備役下士ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ每年一度簡閱點呼ヲ爲シ又勤務演習ノ爲メ召集ス

第七十七條 豫備役後備役下士ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラス職務ヲ奉スル者、外國ニ在ル者及市町村長、助役、收入役トナル者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ(同上)

ヲ以テ改正)

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第七十八條 豫備役後備役下士ハ願ニ依リ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得(同上)

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後(寄留後出願ノ者ハ指令書受領後)三日以内ニ豫備役後備役編入年、現官ニ任セラレタル年月及當テ勤務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ

同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第七十九條 豫備役後備役下士ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第八十條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル下士ハ十四日以内ニ從前ノ在職地ヲ出發シ一日行程十二里詰ヨリ尠カラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ二十五日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ(同上)

前項ノ滞在在若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第八十一條 豫備役後備役下士十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

第八十二條 豫備役後備役下士兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第八十三條 豫備役後備役下士ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第八十四條 豫備役後備役下士ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中兵籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主(本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十五條 豫備役後備役下士重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主(本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十六條 豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其ノ召集ヲ缺キタル年ハ服役年算入セス

第八十七條 第七十八條第三項但書第八十條第一項及第二項第八十一條第一項及第三項第八十二條乃至第八十五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十八條 第八十條第八十一條ハ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ハ拘留ニ處ス

第四章 兵卒ノ服役

第一款 通則

第八十九條 本章中ノ兵卒又ハ兵ニハ雜卒及職工ヲ包含ス

陸軍服役條例

第九十條 徵兵令第七條第十六條第二十四條第二十九條第一項但書及第三項ノ規定ハ憲兵上等兵、樂手補及下士ニシテ官ヲ失ヒ若クハ官ヲ免セラレ一等卒ト爲リタル者並ニ第百六十條ノ兵卒ニ適用ス
(同上)

第九十一條 憲兵上等兵、樂手補ノ服役期限ハ十二箇年四箇月トシ之ヲ分テ現役豫備役及後備役トス其ノ服役終リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシム(同上)

第九十二條 兵卒ハ年齡滿四十歳ヲ以テ服役ノ終期トス但第百三十二條ニ依リ服役スル者ハ滿四十五歳トナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス

第二款 現役

第九十三條 現役兵ハ入隊ノ日ヨリ其ノ隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム

第九十四條 現役兵ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス(同上ヲ以テ第三項ヲ削ル)

憲兵上等兵、樂手補ハ營外ニ居住セシム

警備隊看護手、縫工、靴工中品行方正勤務勉勵且技藝熟達ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第九十五條 憲兵上等兵ノ現役期限ハ前服役年月ヲ通算シ六箇年トス(同上ヲ以テ改正)

第九十六條 砲兵助卒、砲兵輸卒、輜重輸卒及看護卒ノ現役期限ハ二箇年四箇月トシ砲兵助卒ハ一箇年間、砲兵輸卒ハ四箇月間、輜重輸卒ハ三箇月間在營セシメ看護卒ハ四箇月間在營ノ後歸休セシム
(同上)

戰時若クハ事變ニ際スルトキ其ノ他必要ノ場合ニハ在營期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第九十七條 樂手補ノ現役期限ハ樂手補ヲ命セラレタル月ヨリ五箇年トス(同上)

第九十八條 警備隊現役兵ハ一箇年間在營ノ後歸休セシム(同上)

第九十九條 警備隊現役兵中上等兵タルノ技能ヲ有スル者及上等兵、看護手ニシテ志願ノ者ハ尙一箇年間在營セシムルコトヲ得

警備隊上等兵及看護手中下士タルノ技能ヲ有スル者及縫工、靴工ニシテ志願ノ者ハ現役期限滿ツル迄在營セシムルコトヲ得

第一百條 步騎砲工輜重兵卒看護手及縫工靴工ニシテ下士タルノ技能ヲ有スル者ハ現役滿期ノ後三箇年ヲ一期トシ再服役ヲ爲スコトヲ得其ノ下士ニ任セラレタル者ハ之ヲ長期下士トス(同上)

憲兵上等兵、樂手補及警備隊縫工靴工ハ現役滿期ノ後現役定限年齡ニ滿ツル迄數次再服役ヲ爲スコトヲ得其ノ再服役年期ハ一箇年以上トス

前二項ノ再服役ニ關シテハ第五十八條及第五十九條ヲ適用ス

第一百一條 兵卒ノ現役定限年齡ハ左ノ如シ

憲兵上等兵 雜卒 職工 四十歳

步騎砲工輜重兵卒 三十五歳

第一百二條 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生スルトキハ其ノ家族ノ願ニ

依リ現役ヲ免ス

第百三條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

第百四條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第百四條ノ二 第百條第一項ニ依リ再服役ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ軍紀ヲ紊リ又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ下士タルヲ得ヘカラスト認メタル者ニ付テハ其ノ許可ヲ取消ス(同上ヲ以テ追加)

第百五條 憲兵上等兵現役中左ニ掲グル事項ニ當ル者ハ其ノ職ヲ免ス

一 職務ヲ辱シムルニ由リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キトキ

二 素行修マラス屢懲罰ノ處分ヲ受ケ又ハ上官ノ説諭ヲ受クルモ悛改ノ狀ナキトキ

第百六條 現役ヲ離ルルトキ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二箇年四箇月ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム(同上ヲ以テ改正)

第百七條 第百二條第百三條ニ當ル者軍隊第一期ノ教育ヲ卒ラサル前ニ在テハ第二補充兵役ニ服セシム其ノ服役年期ハ前役ヲ通シテ一年四箇月トス(同上)

第百四條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免セラレタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム但シ軍隊第一期ノ教育ヲ卒ラサル前ニ在テハ第二國民兵役ニ服セシム

第百八條 上等兵、看護手及樂手補ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ職ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ第百五

條ニ依リ職ヲ免セラレタル者ハ歩隊砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ一等卒ト爲シ憲兵上等兵、看護手及樂手補ニ在テハ前兵科(前兵科ナキ者ハ歩兵科)ノ一等卒ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ滿タサル者ハ三箇年ニ滿ソル迄現役ニ服セシメ三箇年ヲ過クル者ハ第百六條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ十二箇年四箇月ヲ過クル者ハ第一國民兵役ニ服セシム(同上)

第百九條 第百二條ニ依リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ同徵募區内現役兵ノ戸主(憲兵上等兵、樂手補ハ近鄰ノ戸主)二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモノトス(同上)

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官ニ送附シ聯隊區司令官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ本人所屬ノ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ移スヘシ

第百十條 第百二條乃至第百五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役兵役ヲ免シ若クハ再服役ノ許可ヲ取消シ又ハ憲兵上等兵ヲ免ス(同上)

歸休兵中第百三條第百四條ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免ス但シ召集中ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官前項ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ(同上ヲ以テ本項追加)

第百十一條 憲兵上等兵、樂手補現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタルトキハ其ノ刑期中逃亡中

ノ日數ハ服役年數ニ算入セス(同上ヲ以テ改正)

第一百十二條 現役中徵兵令第十五條ニ依リ歸休ヲ命スヘキ者ハ二箇年以上服役シタル者ニ限ル但警備隊兵卒、砲兵助卒ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル

歸休ヲ命スヘキ人員ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第一百十三條 歸休兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第一百十四條 歸休兵在郷中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ入ルモノトス

第一百十五條 歸休兵在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一百十六條 歸休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又演習ノ爲メ若クハ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第一百十七條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但シ奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫シ若クハ免除スルコトナシ

第一百十七條ノ二 歸休兵ハ願ニ依リ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケルコトヲ得又止ムヲ得サル事故アルトキハ簡閱點呼ノ免除ヲ願出ツルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ツル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但

シ寄留地ニ於テ勤務演習ヲ爲スノ許可及簡閱點呼ヲ受ケルノ許可ヲ受ケタル者ハ寄留地到着後(寄留後出願ノ者ハ指令書受領後)三日以内ニ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ツヘシ(同上ヲ以テ本條追加)

第一百十八條 歸休兵ハ退營後七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十二里詰ヨリ尠カラサル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上ヲ以テ改正)

退營後衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ(同上)

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第一百十九條 歸休兵十四日以上旅行又ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ其ノ由ヲ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第一百二十條 歸休兵ハ外國(韓國ヲ除ク)ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス(同上)

韓國ニ旅行又ハ寄留スル者ニシテ特別ノ事情アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願ハント欲スル者ハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ(同上)

第百二十一條 歸休兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百二十二條 歸休兵ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主(本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ
第百二十三條 歸休兵重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主(本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ
第百二十四條 歸休兵演習又ハ臨時兵員補缺ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷疾疾病其ノ他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ傷疾疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其ノ他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ召集期日迄ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百二十五條 第百十七條ノ二第三項但書第百十八條第一項及第二項第百十九條第一項第百二十一條乃至第百二十四條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(同上)
第百二十六條 第百十八條第百十九條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者及第百二十條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ハ拘留ニ處ス
第百二十七條 (同上ヲ以テ削除)

第三款 豫備役及後備役

第百二十八條 豫備役後備役兵卒ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第百二十九條 豫備役兵卒ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月トス(同上ヲ以テ改正)

第百三十條 前條ニ依リ豫備役ヲ終リタル者ハ五箇年間後備役ニ服セシム

七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第百三十一條 豫備役後備役兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第百三十二條 豫備役後備役兵卒ニシテ各兵科、衛生部下士適任證書ヲ所持スル者ハ滿期後引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ(同上)

第三百二十三條 豫備役後備役兵卒傷疾若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一項ニ當ル者アルトキハ聊隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ豫備後備役又ハ兵役ヲ免ス但シ召集中ニ在テハ聯隊長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官第一百條ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ(同上ヲ以テ本項追加)

第三百二十三條ノ二 豫備役後備役憲兵上等兵召集中左ニ掲グル事項ニ當ル者ハ其ノ職ヲ免ス(同上ヲ以テ本條追加)

一 職務ヲ辱シムルニ由リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キトキ

二 素行修マラズ屢懲罰ノ處分ヲ受ケ又ハ上官ノ説諭ヲ受ケルモ悛改ノ狀ナキトキ

第三百二十三條ノ三 豫備役後備役上等兵、看護手及樂手補ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ職ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若ハ前條ニ依リ職ヲ免セラレタル者ハ步騎砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ一等卒ト爲シ憲兵、看護手及樂手補ニ在テハ前兵科(前兵科ナキ者ハ步兵科)ノ一等卒ト爲ス(同上)

第三百二十四條 豫備役後備役兵卒ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ(同上ヲ以テ改正)

第三百二十五條 豫備役後備役兵卒ハ願ニ依リ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケルコトヲ得(同上)

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後(寄留後出願ノ者ハ指令書受領後)三日以内ニ豫備役後備役編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第三百二十六條 豫備役後備役兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第三百二十七條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル兵卒ハ七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十二里詰ヨリ擲カラサル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ(同上)

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第三百二十八條 豫備役後備役兵卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタル

ルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

第三百二十九條 豫備役後備役兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十條 豫備役後備役兵卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十一條 豫備役後備役兵卒ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中兵籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主(本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四百十二條 豫備役後備役兵卒重罪經罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑及刑期ヲ記シ

ニ届出ヘシ

其ノ戸主(本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ
第四百十三條 第三百二十五條第三項但書第三百三十七條第一項及第二項第三百三十八條第一項及第三項第三百三十九條乃至第四百十二條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第四百十四條 第三百三十七條第三百三十八條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章 補充兵ノ服役

第四百十五條 第一補充兵第二補充兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第四百十六條 補充兵服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ第一補充兵ハ第一國民兵役ニ第二補充兵ハ第二國民兵役ニ入ルモノトス

第四百十七條 補充兵傷痍若クハ疾病ニ由リ補充兵役ニ堪ヘ難キ者ハ第二國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷痍若クハ疾病ニ申リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一項ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ補充兵役又ハ兵役ヲ免ス但シ召集中

ニ在テハ聯隊長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官第百十條ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ(同上ヲ以テ本項追加)

第百四十八條 第一補充兵ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習、簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ(同上ヲ以テ改正)

第百四十九條 第一補充兵ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得(同上)
一箇年以上他ノ師團ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ教育召集ニ應シ及勤務演習ヲ爲スコトヲ得(同上)

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後(寄留後出願ノ者ハ指令書受領後)三日以内ニ第一補充兵編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百五十條 第一補充兵ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第百五十一條 補充兵十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年者ニ限ル)ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ

其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

第百五十二條 補充兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

第百五十三條 補充兵ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

第百五十四條 補充兵ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主(本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ(同上)

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百五十五條 補充兵重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主(本人戶主ナレハ家中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百五十六條 第百四十九條第三項但書第百五十一條第一項及第三項第百五十二條乃至第百五十五條ハ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第百五十七條 第百五十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六章 雜則

第百五十八條 一年志願兵、六週間現役兵及屯田各兵科下士兵卒ノ服役ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第百五十九條 一年志願兵ヨリ豫備役ニ轉入シタル士官、准士官及下士兵卒ノ豫備役後備役服役年期ハ一年志願兵條例ノ規定ニ依ル

第百六十條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及見習軍吏ニシテ各兵科各部ノ下士ニ任セラレ又ハ兵卒ト爲リ豫備役ニ編入セラレタル者ハ其ノ編入年ノ十二月ヨリ起算シ七箇年四箇月間豫備役ニ豫備役終ルノ後五箇年間後備役ニ服セシメ後備役終ルノ後ハ第一國民兵役ニ服セシム
 (同上)

第百六十一條 本條例中特ニ下士兵卒(雜卒職工ヲ包含ス以下同シ)ノ服役期限ヲ定メサルモノハ總テ徵兵令ノ規定ニ從フモノトス

第百六十二條 豫備役將校、同相當官(一年志願兵ヨリ豫備役將校同相當官トナリタル者ヲ除ク)ニシ

テ明治二十三年勅令第二十四號ニ依リ進級シタル者及豫備役轉入後進級シタル者ノ服役期限ハ前官ノ現役年限年齢ニ依ル現役將校同相當官ニシテ服役延期中進級シタル者亦同シ(同上)

第百六十二條ノ二 本條例ニ於テ兵役期限及年齢ハ曆ニ從ヒ月ヲ以テ算ス(同上ヲ以テ追加)

第百六十三條 豫備役後備役將校、同相當官、准士官、下士、兵卒及補充兵ニシテ文官ニ任セラレ若クハ公吏トナリ餘人ヲ以テ代フヘカラサル者又ハ運輸其ノ他ノ業ニ從事シ戰役ニ關シ必要ノ職務ヲ執ル者ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ充員召集ヲ猶豫スルコトアルヘシ(同上ヲ以テ改正)

第百六十四條 徵兵令第二十四條及本條例第二十六條第七十七條ノ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官應ヨリ内閣ニ具狀シ勤務演習及簡閱點呼免除ノ認可ヲ受ケ將校、同相當官及准士官ニ在テハ本人所管ノ師團長ニ下士以下ニ在テハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ其ノ事故止ミタルトキ亦同シ

第百六十五條 本條例ニ依リ在郷軍人補充兵又ハ其ノ戶主若ハ家事擔當者ヨリ町村長ヲ經テ差出ス願届書ハ尙島司、郡長ヲ經由スヘシ(同上ヲ以テ本條改正)

本條例ニ依リ町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スル事項ハ島司、郡長ヲ經由スヘシ
 第百六十五條ノ二 臺灣ニ在テ本條例中師團長ノ職務ハ臺灣守備混成旅團長之ヲ行フ(同上ヲ以テ本條追加)

第百六十五條ノ三 豫備役後備役將校、同相當官及下士、歸休兵、豫備役後備役兵卒、第一補充兵ニシテ

一箇年以上臺灣ニ寄留スル者ハ願ニ依リ同地ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得(同上)
其ノ願出及届出方ハ第二十七條第七十八條第三項第十七條ノ二第三項第三百五條第三項第四百十九條第三項ノ例ニ依ル但シ各條項中師團長及聯隊區司令官ニ届出ツヘキモノハ臺灣守備混成旅團長ニ届出ツヘシ
前項ノ届出ヲ爲ササル者ニ對シテハ第三十六條第八十七條第二百二十五條第四百三十三條第四百五十六條ハ罰例ヲ適用ス

附 則

第百六十六條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ區戶長及之ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ郡長ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長之ヲ行フ(同上ヲ以テ改正)
本條例中ノ市町村トアルハ北海道及沖繩縣ノ區ニ該當ス(同上ヲ以テ追加)

第百六十七條 陸軍豫備後備將校服役條例、陸軍豫備後備下士卒服役條例、陸軍現役下士上等兵再服役條例、陸軍歸休兵條例及明治二十二年勅令第三十七號ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

第百六十八條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第百六十九條 豫備役後備役下士、歸休兵、豫備役後備役兵卒、第一補充兵ニシテ臺灣ニ寄留スル者ニハ當分簡閱點呼ヲ行ハス(同上ヲ以テ本條追加)

第百七十條 明治三十二年十二月一日前任官シタル現役下士(再服役ノ者ヲ除ク)ノ服役期限ハ左ノ

如シ(同上)

- 一 各兵科各部下士(第二以下ニ掲グル者ヲ除ク)ニシテ其ノ服役シタル年月六箇年ニ滿タサル者ハ六箇年ニ滿ツル年ノ十一月三十日迄トシ六箇年ヲ過クル者ハ明治三十三年三月三十一日迄トス
 - 二 教導團及要塞砲兵射擊學校卒業者ヨリ下士ニ任セラレタル者(砲工兵監護及砲臺監守タリシ者ヲ除ク)ハ其ノ入團入校ノ前年十二月ヨリ六箇年トス
 - 三 砲兵工科學校卒業者ヨリ諸工長ニ任セラレタル者ハ任官ノ月ヨリ七箇年
 - 四 經理學校卒業者ヨリ諸工長ニ任セラレタル者ハ入校ノ年ノ十二月(兵卒出身ノ者ハ入隊ノ年ノ十二月)ヨリ六箇年トシ六箇年ヲ過クル者ハ明治三十三年三月三十一日迄トス
 - 五 蹄鐵工下士ハ入隊ノ月ヨリ六箇年
 - 六 軍樂部下士ハ樂生ヲ命セラレタル月ヨリ七年四箇月
- 第百七十一條 明治三十二年十一月三十日現在ノ現役砲工兵監護及砲臺監守中三十六歲以上ニシテ曹長ニ轉官ノ者ハ定限年齢ニ拘ラス同年十二月以後五箇年以内再服役ヲ爲スコトヲ得但シ四十八歲ヲ超ユルヲ得ス(同上)
- 第百七十二條 第百七十條第百七十一條ニ當ル下士及明治三十二年十二月一日前ヨリ再服役ノ下士ハ之ヲ長期下士トス(同上)

明治三十二年十二月一日前ニ於テ再服役ヲ許サレタル上等兵、看護手及樂手補ニシテ同日以後下士

ニ任セラレタル者亦同シ

第七十三條 明治三十二年十二月一日前採用シタル憲兵科及軍樂部現役兵卒(再服役ノ者ヲ除ク)ノ服役期限ハ左ノ如シ(同上)

一 憲兵上等兵ニシテ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ六箇年ニ滿タサル者ハ六箇年ニ滿ツル年ノ十一月三十日迄トシ六箇年ヲ過クル者ハ明治三十三年三月三十一日迄トス

二 樂手補ハ樂生ヲ命セラレタル月ヨリ七箇年四箇月

第七十四條 明治三十二年十二月一日前轉入シタル豫備役後備役特務曹長ノ服役期限ハ從前ノ規定ニ依ル(同上)

第七十五條 明治三十二年十二月一日前轉入シタル豫備役下士及憲兵科軍樂部兵卒並第七十條第百七十三條ノ下士及憲兵科軍樂部兵卒ニシテ同日以後豫備役ニ編入スル者ノ服役期限ハ第七十條第百七十三條ノ年月ヲ通算シ七箇年ニ滿ツル年ノ翌年三月三十一日迄トス(同上)

第七十六條 明治三十二年十二月一日前轉入シタル後備役下士及憲兵科軍樂部兵卒並第七十條第百七十三條第百七十五條ノ下士及憲兵科軍樂部兵卒ニシテ同日以後後備役ニ轉入スル者ノ服役期限ハ第七十條第百七十三條ノ年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿ツル年ノ翌年三月三十一日迄トス(同上)

明治三十二年十二月一日前ヨリ再服役ヲ爲シ同日以後後備役ニ轉入スル者ノ服役期限亦前項ニ同シ

第七十七條 豫備役後備役上等兵中軍吏部下士適任證書又ハ砲兵工科學校、經理學校卒業證書ヲ所持スル者ハ當分第三百二十二條ニ依リ滿期後引續キ服役スルコトヲ得(同上)

附 則

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス(本令トハ改正追加ノ分ナリ)

◎陸軍豫備役後備役ニ在ル者及補充兵ニシテ海員タル者届出ノ件

明治三十年十月

陸軍省令第二十六號

陸軍豫備役後備役ニ在ル者及補充兵ニシテ海員タル者届出ノ件

第一條 陸軍豫備役後備役ニ在ル者及第一第二補充兵ニシテ左ニ掲グル者ハ其ノ雇入ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ雇入ヲ公認シタル市町村長又ハ浦役人又ハ領事ノ證明ヲ受ケ旨ヲ本籍縣隊區司令官又ハ警備隊司令官(町村ニ在テハ島司郡長ヲ經テ)ニ差出ヘシ其ノ解雇セラレタルトキ亦同シ但區長戸長以外ノ者ニ特ニ浦役人ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ區長戸長ヲ經由スヘシ
領事又ハ本籍地以外ノ市町村長若クハ浦役人ノ證明ニ係ル者ノ届書ハ本籍島司郡長及市町村長ヲ經由スヘシ

一 海技免狀ヲ有シ西洋形船舶ニ乗組ノ者

二 海員試験規程ニ於テ遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ヲ卒業シ登簿噸數百噸以上若クハ積石數千石

陸軍豫備役後備役ニ在ル者及補充兵ニシテ海員タル者届出ノ件

以上ノ船舶ニ乗組ノ者

三、登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ水夫長、舵夫、火夫長、油差

第二條、陸軍後備役ニ在ル者及第二補充兵ニシテ登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ賄方水夫火夫ニ付テモ亦同條ニ依ル

第三條、正當ノ事由ナク第一條第二條ノ届出ヲ怠リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條、第一條ノ市町村長ハ東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長戸長及之ニ準スヘキ者トス

第五條、本令施行以前ヨリ第一條及第二條ノ業ニ從事シ在ル者ハ明治三十年十一月二十日迄ニ第一條ノ例ニ依リ届出ヘシ但外國渡航中ノ者ハ歸朝後(領事ノ證明ヲ受クヘキ者ハ證明書受領後)二十一日以內ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ怠ル者ニハ第三條ヲ適用ス

●陸軍召集條例

明治三十二年十月
勅令第三百九十八號

陸軍召集條例

第一章 總則

第一條、召集及簡閱點呼ハ在郷軍人及國民兵本籍地所管ノ師團長之ヲ掌ル

將官同相當官ノ召集ハ本條例ノ規定ニ依ラス師團長直ニ之ヲ行フ

第二條、戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官時機切迫シテ命ヲ請フ途無キトキハ獨斷シテ充員召集補充召集及國民兵召集ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ該司令官ハ召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス

第三條、召集事務ニ關シ師團長ノ定メタル規定ハ警視總監地方長官憲兵隊長及其ノ各所部ノ官吏公吏之ヲ遵行スヘシ
師團長ノ定メタル規定ニシテ公示ヲ要スルモノハ明治二十六年勅令第九十九號ノ規定ヲ準用ス

第四條、師團長ハ定期又ハ臨時ニ地方官廳及公署ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ部下將校ヲシテ之ヲ檢閲セシムヘシ
警視總監地方長官憲兵司令官及憲兵隊長ハ其ノ所部召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ部下官吏ヲシテ之ヲ檢閲セシムヘシ

第五條、在郷軍人ノ召集ニハ召集令狀ヲ用キ召集部隊到着地及到着日時ヲ指定シ簡閱點呼ニハ點呼令狀ヲ用キ點呼場及到着日時ヲ指定ス

國民兵ノ召集ニハ召集令狀ヲ用キスシテ召集令ヲ達ス

第六條、應召員ノ到着スル地ニハ召集事務所ヲ設ク

第七條、召集ニ應スル爲旅行ヲ爲ス者ニハ其ノ出發前ニ於テ旅費ヲ給ス但シ一日行程以內ヲ旅行シタル後之ヲ給スルコトヲ得國民兵ニ在テハ到着地ニ到着シタル後之ヲ給スルコトヲ得

簡閱點呼ニ參會スル者ニハ旅費ヲ給セス

第八條 町村長ハ在郷軍人名簿及第一國民兵名簿ヲ調製シ常ニ其ノ異動ヲ訂正スヘシ

第九條 本條例中在郷軍人トアルハ豫備役後備役ノ將校同相當官准士官下士兵卒（雜卒職工ヲ包含ス以下同シ）歸休兵及補充兵ヲ謂フ

第十條 本條例中到著地トアルハ召集部隊ノ所在地及應召員ノ召集部隊ニ到ル途中ニ於テ集合場ヲ設ケタル地ヲ謂フ

應召員トアルハ召集ニ應スヘキ者ヲ謂フ

第十一條 本條例中聯隊區司令部トアルハ警備隊司令部又ハ警備隊區司令部、聯隊區トアルハ警備隊區、郡トアルハ島司ヲ置キタル島嶼、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者（島司又ハ郡長ニ準スヘキ者無キ島嶼ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者）ノ管轄區、市（東京市京都市大阪市及北海道沖繩縣ノ區ニ在テハ區、北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支廳長ノ管轄區）ニ該當ス

第十二條 本條例中聯隊區司令官ノ職務ハ警備隊區ニ在テハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、郡長ノ職務ハ島司ヲ置キタル島嶼ニ在テハ島司、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支廳長、郡長及町村長ノ職務ハ市ニ在テハ市長（東京市京都市大阪市ニ在テハ區長）北海道及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長、島司郡長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ置カサル島嶼ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者、町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第十三條 島嶼ニ於テ本條例中ノ規定ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第十四條 動員ニ方リ休職停職ノ將校同相當官准士官ヲ就職セシメ及十二月一日以後ニ於テ去タ入營セサル現役兵ヲ徵集スルニハ充員召集ノ方法ニ依ル

第二章 充員召集

第一款 通則

第十五條 充員召集トハ動員ニ方リ諸部團隊ノ要員ヲ充足スル爲在郷軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第十六條 充員召集事務ニ關シ職責アル者ハ平時之ニ關スル諸件ヲ計畫準備シ召集實施ニ方リ其ノ事務ニ關シ訓示ヲ請フコトヲ許サス

第二款 充員召集準備

第十七條 師團長ハ召集要員ヲ定メテ各聯隊區ニ配當ス聯隊區司令官ハ之ニ基キ各郡ノ充員召集名簿待命員名簿及充員召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第十八條 地方長官（東京府ニ在テハ警視總監）ハ召集實施ニ方リ應召員ノ宿泊ニ供スル爲軍用旅舎ヲ定メ其ノ他召集ヲ容易ナラシムル措置ヲ爲スヘシ

第三款 充員召集實施

第十九條 充員召集ハ動員令ニ依リ之ヲ實施ス

第二十條 師團長ハ動員令ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第二十一條 聯隊區司令官ハ動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡長ニ達スヘシ

第二十二條 地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ハ動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察署長(警察分署長ヲ包含ス以下同シ)ニ達シ東京市京都市及大阪市ニ在テハ地方長官之ヲ市長ニ達スヘシ

憲兵隊長ハ動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵分隊長ニ達スヘシ

第二十三條 郡長ハ動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀ヲ町村長ニ送付スヘシ但シ演習召集教育召集中ノ者ノ令狀ハ之ヲ送付セサルモノトス

第二十四條 町村長ハ令狀ヲ受ケタルトキハ之ヲ應召員又ハ召集通報人(休職停職者ニ軍衙ノ命令ヲ通報スヘキ者ヲ包含ス以下同シ)ニ交付シ召集通報人ヲ設ケサル不在者ニ在テハ其ノ戸主ニ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ戸主不在ナルトキハ其ノ家族中家事ヲ擔當スル者ニ令狀ヲ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

召集通報人不在ナルトキハ前二項ニ依ル

第二十五條 應召員ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ハ直ニ確實迅速ナル方法ヲ以テ召集部隊到着地及到着日

時ヲ本人ニ通報(本人ノ所在地ト到着地ト遠隔スル爲到着ヲ遅延スルノ虞アル場合其ノ他必要ノ場合ニ於テハ電信ヲ以テ)シ其ノ令狀ヲ速ニ交付スルノ處置ヲ爲スヘシ

第二十六條 應召員ハ令狀又ハ召集ノ通報ヲ受ケタルトキハ令狀ヲ携ヘ指定ノ日時ニ到着地ニ到着シ召集事務所ニ届出ツヘシ但シ通報ヲ受ケタル者ニシテ令狀ノ交付ヲ受ケル爲到着ヲ遅延スルノ虞アル場合ニ於テハ令狀ヲ携フルヲ要セス

召集ノ通報ヲ受ケタル應召員ニシテ指定ノ日時ニ到着スルコト能ハサル者ハ所在地ノ憲兵又ハ警察官吏ニ就キ其ノ通報ヲ受ケタル日時及出發日時ノ證明書ヲ受ケ到着ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ集合場ニ到着スヘキ者ハ直ニ召集部隊ニ到着スヘシ

第二十七條 應召員ニシテ動員ニ方リ演習召集又ハ教育召集中ノ者アルトキハ部隊長其ノ召集ヲ解除シ其ノ部隊ノ充員召集ニ應スヘキ者ハ直ニ之ヲ當該部隊ニ編入シ他ノ部隊ノ充員召集ニ應スヘキ者ニハ聯隊區司令官ヨリ受ケタル令狀ヲ交付スヘシ

第二十八條 應召員中令狀又ハ通報受領ノ際傷疾疾病ノ爲應召スルコト能ハサル者ハ令狀又ハ通報受領後二十四時間以内ニ聯隊區司令官ニ宛タル届書ニ醫師ノ診斷證書及令狀ヲ添ヘ之ヲ本籍地町村長ニ差出スヘシ但シ寄留又ハ旅行先ヨリ届出ツル者ハ本籍地町村長ニ宛發送スヘシ

令狀又ハ通報受領後出發迄ノ間ニ於テ傷疾疾病ノ爲應召スルコト能ハサルニ至リタル者ハ直ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

犯罪所在不明等ノ爲應召スルコト能ハサル者アルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ令狀ヲ受領シタル者ヨリ令狀受領後二十四時間以内ニ聯隊區司令官ニ宛タル届書ニ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書及令狀ヲ添ヘ之ヲ本籍地町村長ニ差出スヘシ

第一項第二項ノ手續ヲ爲スニ方リ未タ令狀ヲ受領セサル者ハ受領後別ニ之ヲ差出スヘシ

第二十九條 前條ノ場合ニ於テ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ本籍地町村長ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ

町村長ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ聯隊區司令官ノ指定ニ基キ本人ニ出發ヲ命シ又ハ出發ヲ差止ムヘシ

前項ニ依リ出發スル者集合場ニ到着スヘキ者ナルトキハ直ニ召集部隊ニ到着スヘシ

第三十條 應召員ハ途中ニ於テ傷疾疾病ニ罹リ到着ヲ遅延スルノ虞アルトキハ直ニ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ召集部隊長ニ届出テ出發スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ速ニ到着ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

傷疾疾病ノ外止ムヲ得サル事故ニ因リ到着ヲ遅延スルノ虞アルトキハ其ノ地ノ郡長町村長憲兵警察官吏船長又ハ驛長ノ證明書ヲ受ケ到着ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

前二項ノ場合ニ於テ集合場ニ到着スヘキ者ハ直ニ召集部隊ニ到着スヘシ

第三十一條 應召員ハ非常事變ニ因リ交通斷絶シタル爲到着地ニ到着スルコト能ハサル場合ニ於テハ

其ノ旨ヲ最寄諸部團隊(諸部團隊無キ地ニ在テハ郡長町村長憲兵又ハ警察官吏)ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル者ハ適宜ノ處置ヲ爲シ本人ヲシテ到着地ニ到着セシメ得ルニ至レハ證明書ヲ與ヘ出發セシムヘシ但シ集合場ニ到着スヘキ者ニ在テハ直ニ召集部隊ニ到着セシムヘシ

第三十二條 應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者ハ陸軍服役條例第八條第二十九條第八十條第

百十八條第百三十七條ノ例ニ依リ届出ツヘシ補充兵ニ在テハ同條例第百三十七條ノ例ニ依リ届出ツヘシ其ノ召集ニ應スル以前ノ寄留地ニ歸ル者ノ本籍地聯隊區司令官ニ差出スヘキ届書ニハ寄留地町村長ノ證明ヲ受クヘシ

第四款 充員召集ノ解除

第三十三條 充員召集ノ解除ハ復員令ニ依リ之ヲ實施ス

第三十四條 復員令ノ達及通知ニハ第二十條乃至第二十二條ヲ準用ス

第三十五條 郡長ハ復員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第三十六條 召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第三章 補充召集

第三十七條 補充召集トハ充員召集實施後缺員ヲ補充スル爲在郷軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第三十八條 師團長ハ補充召集令ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第三十九條 聯隊區司令官ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ直ニ補充召集令ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

シ

第四十條 郡長ハ令狀ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ送付スヘシ

第四十一條 補充召集ニ關シテハ第十六條第二十四條乃至第三十一條及第三十三條ヲ準用ス

應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者及召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第四章 國民兵召集

第四十二條 國民兵召集トハ國民軍ヲ動員スル爲國民兵ヲ召集スルヲ謂フ

國民兵召集ヲ分テ第一國民兵召集第二國民兵召集ノ二種トス

第四十三條 町村長ハ其ノ管内ニ在籍スル國民兵ノ人員表及退役將校同相當官准士官ノ名簿ヲ作り之ヲ郡長ニ差出スヘシ

第四十四條 郡長ハ前條ノ人員表及名簿ヲ受ケタルトキハ其ノ管内ニ在籍スル國民兵ノ人員表及退役將校同相當官准士官ノ名簿ヲ作り之ヲ警視總監地方長官及聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第四十五條 師團長ハ國民兵ヲ召集スルニハ召集スヘキ國民兵ノ種類年齡集合場其ノ他必要ノ事項ヲ聯隊區司令官ニ達シ其ノ種類年齡及集合場ヲ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十六條 聯隊區司令官ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ召集スヘキ國民兵ノ種類年齡集合場及集合場到着日時ヲ郡長ニ達スヘシ

第四十七條 國民兵召集ニ關シテハ第二十二條ヲ準用ス

第四十八條 郡長ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達シ應召員到着日時前ニ吏員ヲ集合場ニ派遣スヘシ

第四十九條 町村長ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ直ニ應召員ニ其ノ旨ヲ達シ指定ノ日時迄ニ之ヲ集合場ニ引率シ聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ニ交付スヘシ但シ將校同相當官准士官ハ直ニ集合場ニ到着スヘシ

第五十條 聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ハ集合場ニ於テ應召員ノ身體検査ヲ行ヒ召集ニ適セサル者ハ歸郷セシムヘシ

集合場ニ在ル郡ノ吏員ハ聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ノ要求ニ應シ其ノ事務ヲ補助スヘシ

第五章 演習召集

第五十一條 演習召集トハ演習ノ爲在郷軍人(第二補充兵ヲ除ク)ヲ召集スルヲ謂フ

演習召集ヲ分テ定期演習召集臨時演習召集ノ二種トス

第五十二條 臨時演習召集ハ本章ノ規定ニ依ラス臨時規定スルモノヲ除ク外第二章第三款及第四款ヲ準用ス

第五十三條 演習召集ハ本籍所在ノ師管ニ於テス但シ其ノ師管ニ於テ演習ヲ爲スヘキ部隊無キ者ハ他ノ師管ニ於テス

近衛師團ニハ第一師管外ニ在籍スル者ヲ召集スルコトアルヘシ

第五十四條 寄留地ニ於テ演習召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ハ寄留地所管ノ師團長之ヲ召集ス
第五十五條 一年志願兵終末試験及第證書ヲ所持スル者ヲ士官ニ任スル爲行フ演習召集ニ關シテハ陸
軍補充條例ニ依ルノ外仍本章ノ規定ニ依ル

第五十六條 師團長ハ演習召集ノ日時人員日數及部隊ヲ定メ之ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方長
官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

前項ノ召集日數ハ演習ノ成績ニ依リ之ヲ増加スルコトアルヘシ

第五十七條 聯隊區司令官ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ演習召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第五十八條 應召員中傷痍疾病犯罪所在不明等ノ爲應召スルコト能ハサル者ハ應召員又ハ之ニ代リ令
狀ヲ受ケタル者ヨリ到著日時迄ニ聯隊區司令官ニ宛タル届書及其ノ令狀ヲ本籍地町村長(寄留地ニ
於テ召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在テハ寄留地町村長)ニ差出スヘシ但シ傷痍疾病ニ係ルト
キハ醫師ノ診斷證書犯罪所在不明等ニ係ルトキハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添フヘシ
前項ノ手續ヲ爲スニ方リ未タ令狀ヲ受領セサル者ハ受領後別ニ之ヲ差出スヘシ

第五十九條 應召員中父母ノ疾病危篤又ハ死亡ノ爲召集ノ延期ヲ願ハントスル者ハ將校同相當官准士
官ニ在テハ師團長、下士兵卒及補充兵ニ在テハ聯隊區司令官ニ宛タル願書ヲ本籍地町村長(寄留地ニ
於テ召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在テハ寄留地町村長)ニ差出スヘシ但シ父母ノ疾病危篤ノ
者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

第六十條 第五十八條ノ場合ニ於テ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ本籍地町村
長(寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ者ニ在テハ寄留地町村長)ニ届出テ指揮ヲ受ケヘシ
町村長ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ聯隊區司令官ノ指定ニ基キ本人ニ出發ヲ命シ又ハ出發ヲ差止
ムヘシ

第六十一條 演習召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第一項第二項第三十條第一項第二
項及第四十條ヲ準用ス
應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者及召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第六章 教育召集

第六十二條 教育召集トハ教育ノ爲第一補充兵ヲ召集スルヲ謂フ

第六十三條 聯隊區司令官ハ教育召集ノ達ヲ受ケタルトキハ教育召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘ
シ

第六十四條 教育召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第一項第二項第三十條第一項第二
項第四十條第五十三條第五十四條第五十六條及第五十八條乃至第六十條ヲ準用ス
應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者又ハ召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第七章 補缺召集

第六十五條 補缺召集トハ平時ニ於テ臨時ニ兵員ノ補缺ヲ要スルトキ歸休兵ヲ召集スルヲ謂フ

第六十六條 補缺召集ハ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ師團長之ヲ行フ

第六十七條 聯隊區司令官ハ補缺召集ノ達ヲ受ケタルトキハ補缺召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第六十八條 補缺召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第一項第二項第三十條第一項第二項第四十條第五十六條第一項第五十八條乃至第六十條ヲ準用ス

第八章 簡閱點呼

第六十九條 簡閱點呼トハ豫備役後備役下士兵卒歸休兵及第一補充兵ヲ集合シテ之ヲ點檢査閱スルヲ謂フ

第七十條 師團長ハ簡閱點呼ノ時期ヲ定メ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ

第七十一條 師團長ハ部下ノ佐官又ハ尉官ニ簡閱點呼執行官ヲ命シ之ニ必要ナル訓示ヲ授ケヘシ

簡閱點呼ハ參會スヘキ者僅少ナル僻陬ノ地ニ在テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第七十二條 聯隊區司令官ハ第七十條ノ達ヲ受ケタルトキハ點呼場點呼區域及點呼日割ヲ定メ之ヲ師團長ニ差出シ警視總監地方長官憲兵隊長簡閱點呼執行官及郡長ニ通知スヘシ

第七十三條 地方長官(東京府ニ在テハ警視總監)及郡長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方長官(東京府ニ在テハ警視總監)ハ之ヲ警察署長、郡長ハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

憲兵隊長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵分隊長ニ達スヘシ

第七十四條 聯隊區司令官ハ點呼令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第七十五條 簡閱點呼ニ關シテハ第二十四條第二十五條及第四十條ヲ準用ス

第七十六條 令狀又ハ參會ノ通報ヲ受ケタル者ハ指定ノ日時ニ點呼場ニ到着シ簡閱點呼執行官ニ届出ツヘシ

第七十七條 町村長ハ簡閱點呼ニ參列シ簡閱點呼執行官ノ要求ニ應シ其ノ事務ヲ補助スヘシ又必要ナルトキハ點呼參會者ニ訓示ヲ與フルコトヲ得

第七十八條 令狀又ハ參會ノ通報ヲ受ケタル者ニシテ傷痕疾病犯罪所在不明等ノ爲參會スルコト能ハサル者ハ本人又ハ本人ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ヨリ參會日時迄ニ簡閱點呼執行官ニ宛タル届書及其

ノ令狀ヲ本籍地町村長(寄留地ニ於テ簡閱點呼ニ參會スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ在テハ寄留地町村長)ニ差出スヘシ但シ傷痕疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷證書、犯罪所在不明等ニ係ルトキハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添フヘシ

第七十九條 簡閱點呼執行官ハ遲參ノ爲簡閱點呼ヲ終ラサル者ニハ他ノ點呼場ヲ指定シテ參會ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ令狀ヲ作り之ヲ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

第九章 罰則

第八十條 正當ノ事由無クシテ第二十五條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者並簡閱點呼參會者ニシテ點呼場ニ於テ簡閱點呼執行官ノ命ニ服セス又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一日以

上十日以下ノ拘留ニ處ス

第八十一條 正當ノ事由無クシテ第二十六條第二項第二十八條第一項乃至第三項第二十九條第一項第三十條第一項第二項第三十一條第一項第五十八條第一項第六十條第一項第七十八條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者並正當ノ事由無クシテ簡閱點呼ニ參會セサル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第八十三條 臺灣ニ於テ演習召集教育召集及簡閱點呼ヲ行フニ際シテハ陸軍大臣適宜其ノ方法ヲ規定スルコトヲ得

第八十四條 豫備役後備役屯田兵下士卒ノ召集事務ニ關シ郡長及町村長ノ職務ハ屯田兵村監視之ヲ行フ

第八十五條 士官適任證書所持者ヲ士官ニ任スル爲行フ演習召集ニ關シテハ第五十五條ヲ準用ス

第八十六條 當分ノ内第七師團ニ於テハ演習ノ爲他ノ師管在籍ノ者ヲ召集スルコトヲ得

第八十七條 本條例ハ明治三十二年十月二十日ヨリ施行ス但シ師團長ハ七箇月以内一部ノ施行ヲ延期シ舊令ニ依ルコトヲ得

(參照)

三十二年陸軍省令第二十九號施行規則

海軍下士卒服役條例

明治三十一年六月勅令第三百二十四號

海軍下士卒服役條例

第一章 下士卒ノ服役

第一款 通則

第一條 下士卒ノ服役ハ現役豫備役及後備役ノ三種トス其ノ服役ヲ終リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシム

第二條 艦團要港部病院學校及練習所勤務ノ下士卒ハ各其ノ艦團要港部病院學校及練習所内ニ居住セシムルヲ例トス

第三條 下士卒ノ服役年限ハ四十五年トス
卒ノ服役年限ハ四十年トス

第四條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若ハ臨時ニ演習等ノ擧アルトキ若ハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ其ノ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

第五條 徵兵ニシテ再服役ヲ志願シ認可ヲ得再服役ヲ爲ストキハ之ヲ志願兵籍ニ編入ス

海軍下士卒服役條例

第六條 下士卒ノ現役又ハ兵役ヲ免セントスルトキハ先ツ之ヲ在籍鎮守府ニ屬スル海兵團ニ入團セシメ鎮守府司令長官之ヲ免ス(二十三年勅令第二百八十九號ヲ以テ改正)

第二款 現役

第七條 現役下士卒ハ鎮守府ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム

現役下士卒ノ兵籍ハ在籍鎮守府ノ兵事官ヲシテ之ヲ管セシム(同上)

第八條 現役下士卒ノ服役期限ハ下士ニ任用セラレタル日ヨリ起算シ六箇年現役卒ノ服役期限ハ兵籍ニ入りタル日ヨリ起算シ八箇年トス但シ服役中定限年齢ニ達スル者ニ付テハ其ノ定限迄トス

第九條 現役下士卒ハ前條ノ服役期限滿ツルモ服役定限年齢ニ達スル迄ハ數次再服役ヲ請フコトヲ得第十條 再服役ヲ爲サント欲スル者ハ三箇年ヲ一期トシ之ヲ請フヘシ但シ別ニ勅令ヲ以テ定ムル服役ノ義務アル者ニ在テハ其ノ義務終ル迄ヲ一期ト爲スコトヲ得

三箇年以内ニ服役定限年齢ニ達スル者ニシテ再服役ヲ爲サント欲スル者ハ定限年齢迄之ヲ請フヘシ第一項但書ノ場合ニ於テ一箇年ニ滿サル端數ヲ生スルトキハ一箇年ニ滿タヌヲ要ス(同年勅令第三十四號ヲ以テ本項追加)

第十一條 再服役ハ志操確實身體強壯品行善良ニシテ技能優等ナリト總團要港部其ノ他各部ノ長ノ確認シタル者ニアラサレハ許可スルコトヲ得ス

第十二條 再服役ハ總團要港部其ノ他各部ノ長ニ滿期ノ前前月中ニ出願スヘシ

第十三條 總團要港部其ノ他各部ノ長ハ部下下士卒ノ現役滿期ト爲ル者ヲ調査シ其ノ再服役志願者ニ就キ第十一條ニ適合スル者ナルトキハ在籍鎮守府ノ司令長官ノ承認ヲ經滿期ノ前月中ニ之ヲ許可スヘシ

再服役ヲ許可シタルトキハ其ノ旨本人ノ履歷ニ記入シ且ツ誓約書ヲ出サシメ之ヲ在籍鎮守府ノ兵事官ニ送付スヘシ(同年勅令第二百八十九號ヲ以テ改正)

第十四條 航海又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ前條ノ期限内ニ再服役許可ノ手續ヲ履行スル能ハスト認ムルトキハ豫メ其ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第十五條 現役下士卒服役中本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル者アルトキハ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトヲ得

前項ニ依リ免役ヲ願出ントスル家族ハ其ノ願書ニ市町村長ノ事實審査書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ本人在籍鎮守府ノ司令長官ニ願出ヘシ

鎮守府司令長官ハ之ヲ許可スルニ先キ兵事官ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ但シ服役中(下士ニ在テハ卒服役中ヲモ包含ス)分家若ハ絶家廢家再興ノ爲又ハ養子若ハ入夫ト爲リタル爲免役ノ必要ヲ生シタル者アルトキハ許可スルノ限ニアラス(同上)

第十六條 現役下士卒服役中傷痍若ハ疾病ノ爲現役ニ堪ヘ難キ者ニ付テハ本人在籍鎮守府ノ司令長官其ノ現役ヲ免シ豫備役若ハ第一國民兵役ニ編入ス永久服役ニ堪ヘ難キ者ニ付テハ同長官其ノ兵役ヲ

免ス但シ五等卒ノ教育ヲ卒テサル徴兵ニシテ傷痍若ハ疾病ノ爲現役ニ堪ヘ難キ者ニ在テハ補充兵役ニ服セシム

前項ニ依リ現役若ハ兵役ヲ免スヘキ者アリト認ムルトキハ艦團要港部其ノ他各部ノ長（入院中ノ者ナルトキハ病院長）之ヲ所管長官ニ上申シ所管長官ハ之ヲ本人在籍鎮守府ノ司令長官ニ移牒シ該長官ハ之ヲ審査シ現役若ハ兵役ヲ免ス此ノ場合ニ於テハ本人ヲ海兵團ニ入團セシメサルコトヲ得

第十七條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者若ハ允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタル者ニ對シテハ其ノ刑期日數又ハ逃亡中ノ日數若ハ歸期ニ後レタル日數ヲ現役年期ニ算入セス

第十八條 現役下士卒ノ父母重症ニ罹リ若ハ死亡シタルトキハ親戚又ハ近鄰戸主二人以上ヨリ其ノ連署ノ願書ニ市町村長ノ奥書證明ヲ受ケ醫師ノ診斷書若ハ死亡證書添ヘ艦團要港部其ノ他各部ノ長ニ本人ノ歸郷ヲ願出ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ艦團要港部其ノ他各部ノ長ハ審査ノ上往復ヲ除キ十四日以内ノ日數ヲ限リ其ノ願ヲ許可スルコトヲ得

第三款 豫備役及後備役

第十九條 豫備役後備役下士卒ハ本籍所在ノ海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府ノ兵籍ニ編入シ兵事官ヲシテ其ノ兵籍ヲ管セシム（同上）

第二十條 豫備役下士トハ現役ヲ免セラレタル下士ニシテ豫備役ニ服スル者並海軍准士官下士任用進級條例第十六條第十八條ニ依リ豫備役一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者及同條例第十七條ニ依リ一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ニシテ豫備役ニ服スル者ヲ謂フ

後備役下士トハ海軍准士官下士任用進級條例第十六條第十八條ニ依リ後備役一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者並同條ニ依リ徴兵ノ一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ニシテ豫備役ヲ終リ後備役ニ服スル者ヲ謂フ

第二十一條 豫備役下士ノ服役期限ハ現役ニ服シタル年月（卒トシテ服役シタル年月ヲモ包含ス）ヲ通算シ滿十六箇年ニ達スル迄トス但其豫備役ニ入りタル後四箇年ニ達シタル者ニシテ現役ニ服シタル年月（卒トシテ服役シタル年月ヲモ包含ス）ヲ通算シ十二箇年ヲ過キタルトキハ豫備役ヲ免ス（同年勅令第三十四號ヲ以テ改正）

第二十二條 海軍准士官下士任用進級條例第十六條第十七條及第十八條ニ依リ下士ニ任セラレタル者ノ服役期限ハ下士ニ任セラレサルトキト同シ

第二十三條 豫備役卒トハ現役ヲ免セラレタル卒ニシテ豫備役ニ服スル者ヲ謂フ
後備役卒トハ後備役ニ服スル徴兵ノ卒ヲ謂フ

第二十四條 豫備役卒ノ服役期限ハ四箇年ニシテ豫備役編入ノ日ヨリ起算ス
但シ再服役滿期若ハ第十五條及第十六條ニ依リ豫備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ

通算シ十二箇年トス

徴兵ニシテ第十五條及第十六條ニ依リ豫備役ニ入ル者ノ豫備服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年トシ十二箇年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

第二十五條 下士ニシテ現役ヲ離ルトキ服役滿十六箇年以上ニ達スル者及第十六條又ハ第二十六條ニ依リ現役豫備役或ハ後備役ヲ免シ第一國民兵役ニ編入シ若ハ兵役ヲ免スル下士ニ付テハ同時ニ其ノ官ヲ免シ志願兵ヨリ下士ニ任用セラレ豫備役滿期ノ者及後備役滿期ノ下士ニ付テハ別ニ辭令ヲ用キスシテ其ノ官ヲ免スルモノトス此ノ場合ニ於テ年齡滿四十年ニ達セサル者ニ在テハ四十年ニ達スル迄第一國民兵役ニ入ルモノトス

豫備役後備役卒服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ在リタル徴兵ハ後備役ニ後備役ニ在リタル者ハ第一國民兵役ニ豫備役ニ在リタル志願兵ニシテ年齡四十年ニ達セサル者ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第二十六條 豫備役後備役下士卒傷疾若ハ疾病ニ由リ各其ノ服役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

前項ニ依リ服役ニ堪ヘスト思惟スル者ハ軍醫官ノ診斷書若ハ地方醫師ノ病狀書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ地方廳ヲ經テ在籍鎮守府ノ司令長官ニ届出ヘシ

第二十七條 現役ヨリ豫備役ニ入リタル下士卒ハ十四日以内ニ在籍鎮守府ニ屬スル海兵團所在地(第

十六條第二項ニ依リ入團セシメサル者ニ在テハ現役ヲ免セラレタル地)ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ勤カラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ本人ノ籍ヲ管スル海兵團長ニ届出ヘシ

滞在若ハ旅行ノ爲前項ノ日數間ニ歸郷シ難キトキハ召集通報人ヲ定メ前項ノ出發期日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ(同年勅令第二百八十九號ヲ以テ改正)

第二十八條 (同年勅令第三十四號ヲ以テ削除)

第二十九條 豫備役後備役下士卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ(同年勅令第二百八十九號ヲ以テ改正)

第三十條 豫備役後備役下士卒ハ戰時若ハ事變ニ際シ之ヲ召集シ平時ニ在テハ簡閱點呼又ハ演習ノ爲召集スルコトアルヘシ

第三十一條 (同年勅令第三十四號ヲ以テ削除)

第三十二條 豫備役後備役下士卒已ムヲ得サル事故アリ演習召集ノ猶豫又ハ簡閱點呼召集ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ在籍鎮守府ノ司令長官ニ差出スヘシ(同年勅令第二百八十九號ヲ以テ改正)

前項ノ場合ニ於テ鎮守府司令長官ハ審査ノ上其ノ願ヲ許可スルコトヲ得

第三十三條 豫備役後備役下士卒外國ニ在リ召集ノ通報ヲ受ケ又ハ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタ

ルトキハ直ニ歸朝シ歸著後二十四時間以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ(同上)

第三十四條 豫備役後備役下士卒ニシテ餘人ヲ以テ代フヘカササル職務ヲ奉スル文官並市町村長、助役、收入役及餘人ヲ以テ代フヘカササル職務ヲ奉スル其ノ他ノ公吏タルトキ及外國ニ在ルトキハ演習及簡閱點呼ノ爲召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員タルトキ其ノ開會中亦同シ

第三十五條 豫備役後備役下士卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ(同上)

第三十六條 豫備役後備役下士卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戸籍ヲ轉換シタルト

キハ十四日以内ニ其ノ戸主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若ハ其ノ所在ヲ知得シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ家族ナキトキハ市町村長ヨリ在籍鎮守府ノ兵事官ニ通知スヘシ(同上)

第三十七條 豫備役後備役下士卒重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ家族ナキトキハ市町村長ヨリ在籍鎮守府ノ兵事官ニ通知スヘシ(同上)

第三十八條 豫備役後備役下士卒正當ノ事由ナク召集ニ應ゼサルトキ又ハ召集中逃亡シ若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ犯罪ノ爲召集ヲ缺キタルトキハ其ノ年ヲ服役年期ニ算入セス

第三十九條 第二十七條第二十九條第三十三條第三十五條第三十六條第一項第三十七條第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス但シ交通不便若ハ天災ノ爲本文ハ届出ヲ爲シ能ハサルトキハ此ノ限ニアラス(同年勅令第二十四號ヲ以テ改正)

第四十條 (同上ヲ以テ削除)

第二章 雜則

第四十一條 豫備役後備役下士卒ニシテ文官ニ任セラレ若ハ公吏ト爲リ餘人ヲ以テ代フヘカササル者又ハ運輸通信等ノ事業ニ從事シ戰役ニ關シ必要ナル職務ヲ執ル者ハ海軍大臣ヨリ上裁ヲ經テ充員召集ヲ猶豫スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ理由ヲ附シ本人ヲ要スル官廳公署若ハ會社船主等ヨリ海軍大臣ニ願出ヘシ

第四十二條 徵兵令第二十四條及本條例第三十四條ノ餘人ヲ以テ代フヘカササル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ演習及簡閱點呼召集免除ノ認可ヲ受ケ在籍鎮守府ノ兵事官ニ通報スヘシ其ノ事故止ミタルトキ亦同シ(同年勅令第二百八十九號ヲ以テ改正)

第四十三條 現役下士卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ其ノ戸主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ本籍所在ノ市町村長ヲ經テ本人在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ兵事官ハ之ヲ本人ノ

屬スル艦團要港部其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ(同上)

第四十四條 下士卒ノ服役ニ關スル年齢ハ海軍兵籍ニ登載セル誕辰ノ月ヨリ起算ス

第四十五條 下士卒現役若ハ召集中刑ニ處セラレタルトキハ艦團要港部其ノ他各部ノ長ヨリ本人在籍ノ地方廳ニ通知ス(同年勅令第二十四號ヲ以テ改正)

地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ市町村長ニ達シ本人ノ家族ニ通達セシムヘシ

第四十六條 本條例ニ依リ町村長ヲ經由スヘキ書類ハ島司郡長支廳長又ハ之ニ準スヘキ者ヲモ經由スヘシ

第四十七條 市町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本條例中市町村長ノ職務ハ區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第四十八條 徵兵ニ關シテハ徵兵令及徵兵事務條例ニ規定ナキモノニ限り本條例ヲ適用ス

附 則

第四十九條 明治二十二年勅令第五十六號海軍下士服役條例同年勅令第五十七號海軍下士卒再服役條例及明治二十九年勅令第三百二號ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

第五十條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

海軍召集條例

明治三十一年十月
勅令第三百四十七號

海軍召集條例

第一章 總 則

第一條 本條例ハ豫備役後備役ニ在ル海軍軍人ノ召集ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 准士官以上ノ召集ハ海軍大臣之ヲ行ヒ下士卒ノ召集ハ鎮守府司令長官之ヲ行フ

第三條 戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル諸官時機切迫シ命ヲ請フノ暇ナキトキハ獨斷ニテ豫備役後備役下士卒ノ召集ヲ行フコトヲ得

第四條 鎮守府司令長官ハ部下將校ヲシテ定期若ハ臨時ニ諸官衙及公署ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ検査セシムヘシ

地方長官警視總監憲兵司令官憲兵隊長ハ其ノ所部召集事務ノ整否ヲ検査シ又ハ部下官吏ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ

第五條 召集ニ關スル細則及旅費支給ノ方法ハ海軍大臣之ヲ定ム

第六條 召集ハ充員召集演習召集及簡閱點呼ノ三種トス

第七條 充員召集トハ戰時若ハ事變ニ際シ充員ヲ行フ爲豫備役後備役軍人ノ一部又ハ全部ヲ召集スルヲ謂フ

充員召集事務ニ關シ責任ヲ有スル者ハ豫メ之ニ關スル諸行務ヲ整備シ置キ召集實施ニ際シ凝滯ナキヲ期スヘシ

充員召集發令ノ後ハ召集事務ニ關シ訓示命令等ヲ請フコトヲ得ス

第八條 演習召集トハ演習ヲ行フ爲平時ニ於テ豫備役後備役軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第九條 演習召集ヲ大演習召集及小演習召集ノ二種ニ分ツ

大演習召集トハ大演習施行ノ際豫備役後備役軍人ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂ヒ小演習召集トハ

小演習施行ノ際豫備役後備役下士卒ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂フ

第十條 簡閱點呼トハ豫備役後備役下士卒ヲ實査スル爲時期ヲ定メ其ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂フ

第十一條 充員及演習召集ニ應シ到着スヘキ場所ハ豫備役後備役准士官以上ニ在テハ海軍大臣之ヲ定メ豫備役後備役下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ニ屬スル海兵團トス(三十三年勅令第二百八十八號ヲ以テ改正)

第十二條 簡閱點呼ヲ行フ場所ハ簡閱點呼執行官之ヲ定ム

第十三條 充員召集及演習召集ニハ召集令狀ヲ發シ簡閱點呼ニハ點呼令狀ヲ發ス

第十四條 召集令ハ迅速確實ナル方法ヲ以テ通達スヘシ

第十五條 豫備役後備役下士卒ノ一部ヲ召集スルトキハ鎮守府司令長官ハ何年何月以後ニ現役ヲ離レタル者ヲ召集スヘキコトヲ定ム

第十六條 豫備役後備役下士卒ノ召集區域ハ海軍志願兵徵募區ノ區域ニ依ル

第二章 召集準備

第十七條 召集ノ實施ヲ容易ナラシムル爲豫備役後備役准士官以上ノ召集名簿ハ海軍省ニ於テ下士卒ノ召集名簿ハ在籍鎮守府ニ於テ整備シ置クヘシ(同上)

第十八條 准士官以上ノ召集令狀ハ海軍省ニ於テ調製保管シ下士卒ノ召集令狀ハ鎮守府ニ於テ調製シ豫メ之ヲ郡市長ニ送付シ郡市長ハ召集ノ發令アルマテ之ヲ保管スヘシ但シ郡長ハ町村長ヲシテ召集令狀ヲ保管セシムルコトヲ得(同上)

第十九條 鎮守府ニ於テハ旅費證券ヲ作り召集令狀ト共ニ郡市長ニ送付シ置クヘシ但シ郡長ハ町村長ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得(同上)

第二十條 地方長官ハ市町村長ヲシテ召集ニ應スル者ノ休泊ニ充ツル爲豫メ市町村内ニ於テ海軍軍用旅舎ヲ選定セシメ之ヲ憲兵隊及警察署ニ通知シ置クヘシ

第二十一條 地方長官ハ前條ノ外召集ヲ容易ナラシムル爲相當ノ措置ヲ爲スヘキモノトス

第二十二條 豫備役後備役軍人ハ其ノ本籍地ニ於テ召集ニ應スルヲ例トス但シ本邦ニ在テハ寄留地ニ於テ、外國在留ノ者ニ在テハ其ノ所在地ニ於テ、海員タル者ニ在テハ本人ノ屬スル船舶ノ船籍港若ハ平常運航ノ一港ニ於テ召集ニ應スルコトヲ得

前項但書ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ其ノ兵籍ヲ管スル海兵團長ニ届出ヘシ但シ外國在留ノ者ハ本文ノ手續ヲ爲スト同時ニ在留國ノ

領事官貿易事務官ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出
ヘシ(同上)

第二十三條 豫備役後備役軍人十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集通報人ヲ定メ市町村長
ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出テ歸郷シタルトキ
ハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ兵事官ニ届出ヘシ但
シ外國へ航海又ハ在留セントスルトキハ其ノ事由ヲ記シ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ准士官以上ニ在
テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ兵事官ニ届出ヘシ其ノ歸朝シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經
テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ兵事官ニ届出ヘシ(同上)

第三章 充員召集

第二十四條 海軍大臣及鎮守府司令長官ハ充員召集ノ令アリタルトキハ速ニ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守
府司令長官ハ同時ニ地方長官警視總監憲兵隊長(東京府ニ在テハ憲兵司令官以下之ニ倣フ)ニ通知シ
必要アルトキハ關係アル領事官、貿易事務官ニ通知スヘシ

第二十五條 前條ノ通知アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ郡市町村長並召集事務ニ關係アル官吏ニ警視
總監憲兵隊長ハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

第二十六條 召集令狀保管者充員召集ノ令ヲ受クルトキハ令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ直ニ豫定ノ方法ヲ
以テ之ヲ被召集人又ハ召集通報人ニ交付シ受領證ヲ徹スヘシ下士卒ノ召集令狀ニ對スル受領證ハ取

纏メ之ヲ鎮守府兵事官ニ送付スヘシ(同上)

召集通報人ナキ不在者ニ在テハ其ノ戶主(本人戶主又ハ戶主不在ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨ
リ受領證ヲ出スヘシ

下士卒ノ召集令狀保管者ハ前二項ニ依リ召集令狀ヲ交付シタル者ノ人名並事故アリテ之ヲ交付シ得
サルトキハ其ノ人名(其ノ事由ヲ記シ)ヲ速ニ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

第二十七條 充員召集令ノ達ヲ受ケタル官衙並公署ハ直ニ軍事警報ヲ揭示スルモノトス但シ鎮守府司
令長官ハ海軍大臣ノ命ニ依リ之ヲ揭示セシメサルコトヲ得

第二十八條 被召集人ニ代リ召集令狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通報シ其ノ令狀ヲ本人ニ
交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十九條 准士官以上召集令狀ヲ受領シタルトキハ旅費ヲ受領シ速ニ指定ノ場所ニ到着スヘシ
前項准士官以上ノ官姓名ハ豫メ海軍省ヨリ到着地ノ長官ニ通知シ長官ハ其ノ到着ノ都度最モ迅速確
實ナル方法ニ依リ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第三十條 下士卒召集令狀ヲ受領シタルトキハ旅費及旅費證票ヲ受領シ其ノ令狀ニ指定シタル期日ニ
於テ海兵團ニ到着スヘシ

第三十一條 憲兵及警察官吏第二十六條第三項ノ通知ヲ受クルトキハ其ノ被召集人ヲシテ所命ノ期日
ニ召集ニ應セシムルノ處置ヲ爲スヘシ

第三十二條 召集地ニ到ルノ途中ニ於テ已ムヲ得サル事故ノ爲到著ヲ遅延スル場合ニ在テハ其ノ事故傷痕疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ、其ノ他ノ事故ナルトキハ其ノ事故ノ生シタル地ノ市町村長、警察官吏、船長若ハ驛長ニ就キ證明書ヲ受領シ到著ノ上准士官以上ニ在テハ到著地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ノ兵事官ニ差出スヘシ(同上)

前項ノ事故ヲ生シタルトキ准士官以上ニ在テハ迅速ナル方法ニ依リ其ノ事故及豫定延滞日數ヲ到著地ノ長官ニ届出テ該長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ東京ニ到著スヘキトキハ直接ニ海軍大臣ニ届出ヘシ

第三十三條 召集令狀ノ交付ヲ受クルモ已ムヲ得サル事故ノ爲速ニ出發シ難キカ或ハ豫定期日迄ニ指定ノ場所ニ到著スルコト能ハサル場合ニ在テハ其ノ事故傷痕疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ本人ヨリ、旅行犯罪失踪等ナルトキハ召集令狀ヲ受領シタル者ヨリ事由届書(准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ宛テ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ノ兵事官ニ宛テ)ヲ二十四時間以内ニ市町村長ニ差出スヘシ市町村長前項ノ届書ヲ受領スルトキハ准士官以上ノモノニ付テハ本人ノ到著スヘキ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ進達シ下士卒ノモノニ付テハ鎮守府兵事官ニ送附スヘシ(同上)

第一項ニ依リ届書ヲ差出シタル場合ニ於テ下士卒ノ召集令狀ハ之ヲ郡市長若ハ町村長ニ返付スヘシ第三十四條 前條第一項ニ依リ事由届書ヲ差出シタル場合ニ於テ其ノ事故止ミタルトキハ准士官以上ニ在テハ速ニ海軍省ニ届出テ命ヲ待チ下士卒ニ在テハ速ニ郡市長若ハ町村長ヨリ召集令狀ヲ受取リ

其ノ指示ニ從フヘシ

第三十五條 召集シタル下士卒ハ海兵團ニ於テ身體検査ヲ行フ身體検査ニ於テ服役ニ堪ヘスト認ムルトキハ召集ヲ解キ旅費ヲ給シテ歸郷セシム

第三十六條 召集ノ期ニ後ルル者アルトキハ下士卒ニ在テハ海兵團長准士官以上ニ在テハ到著地ノ長官事實ヲ糺シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第三十七條 下士卒ノ召集完結スルトキハ海兵團長ハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ其ノ報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三十八條 正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ規定ニ背ク者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

正當ノ事由ナクシテ第二十八條ノ規定ニ背ク者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス
正當ノ事由ナクシテ第三十三條及第三十四條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三十九條 召集解除ノ令アリタルトキハ海軍大臣及鎮守府司令長官ハ速ニ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司令長官ハ同時ニ地方長官警視總監憲兵隊長ニ通知シ旅費ヲ給シ被召集人ヲ歸郷セシム

第四十條 召集解除ノ行務完結スルトキハ海兵團長ハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ其ノ報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第四十一條 召集ノ諸行務ニ關シ責任ヲ有スル諸員ハ召集解除後速ニ復タ召集ノ準備ヲ爲スヘシ

第四章 演習召集

第四十二條 海軍大臣及鎮守府司令長官ハ大演習召集ノ令アリタルトキハ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司令長官ハ同時ニ地方長官警視總監憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十三條 鎮守府司令長官小演習召集ヲ行ハントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十四條 鎮守府司令長官小演習召集ヲ行フトキハ之ヲ其ノ部下ニ達シ同時ニ召集區域内地方長官警視總監憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十五條 大演習若ハ小演習召集ノ通知アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ郡市町村長並召集事務ニ關係アル官吏ニ警視總監憲兵隊長ハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

第四十六條 演習召集ニハ第二十六條第二十八條乃至第三十三條及第三十五條乃至第四十二條ヲ準用ス

第四十七條 第三十三條第一項ニ準シ事由屆書ヲ差出シタル場合ニ於テ其ノ事故止ミタルトキハ准士官以上ニ在テハ速ニ海軍省ニ届出テ命ヲ待チ下士卒ニ在テハ速ニ郡市長若ハ町村長ヨリ召集令狀ヲ受取リ其ノ指示ニ從ヒ旅費及旅費證票ヲ受取リ直ニ海兵團ニ到着スヘシ但シ演習ノ前半期間ニ召集地ニ到着スル能ハサル者ト認ムルトキハ郡市長若ハ町村長ハ其ノ發程ヲ差留メ之ヲ鎮守府兵事官ニ通知スヘシ(同上)

第四十八條 演習召集令狀ノ交付ヲ受ケタル者其ノ父母重症ニ罹リ若ハ死亡シタルトキハ親戚又ハ近

鄰戸主二人以上連署ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書若ハ死亡證ヲ添ヘ准士官以上ニ在テハ到着スヘキ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ鎮守府司令長官ニ二十四日以内ノ延期ヲ願出ルコトヲ得(同上)

前項ノ場合ニ於テ海軍大臣鎮守府司令長官ハ審査ノ上其ノ願ヲ許可スルコトヲ得(同上)

第四十九條 正當ノ事由ナクシテ第四十七條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章 簡閱點呼

第五十條 鎮守府司令長官ハ簡閱點呼ノ爲毎年一回豫備役後備役下士卒ヲ召集シ簡閱點呼執行官ヲ派出シ期日ヲ定メ點呼ヲ行ハシム但シ他ノ召集ヲ行ヒタル年ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 鎮守府司令長官ハ部下將校若干名ニ簡閱點呼執行官ヲ命シ之ニ必要ノ訓令ヲ授クヘシ又必要アルトキハ簡閱點呼執行官ニ部下主計官ヲ附スルコトヲ得

第五十二條 各簡閱點呼執行官ニハ下士卒若干名ヲ附屬セシム

第五十三條 鎮守府司令長官簡閱點呼ヲ行ハントスルトキハ簡閱點呼執行官ニ其ノ巡回區及出發期日ヲ達シ同時ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ(同上)

第五十四條 鎮守府司令長官ハ簡閱點呼執行官ヲシテ巡回順路ヲ豫定セシメ出發期日ト共ニ之ヲ關係地方長官ニ通知スヘシ(同上)

第五十五條 地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡市長ニ達シ郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ市町村長ハ之ヲ豫備役後備役下士卒ニ豫告スヘシ

第五十六條 簡閱點呼召集所ハ地方廳管轄區域ノ廣狹及被點呼者ノ多少ニ依リ簡閱點呼執行官之ヲ定ムルモノトス

點呼令狀ハ鎮守府ニ於テ調製シ前項ニ依リ簡閱點呼召集所定マリタルトキハ兵事官ヨリ之ヲ郡市長ニ送付スヘシ(同上)

第五十七條 簡閱點呼執行官ハ巡廻日割ヲ定メ郡市長ニ通知スヘシ

郡市長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ點呼令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ之ヲ被點呼者又ハ召集通報人ニ交付シ受領證ヲ徴スヘシ

召集通報人ナキ不在者ニ在テハ戶主(本人戶主又ハ戶主不在ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ受領書ヲ出スヘシ

郡市長ハ事故アリテ點呼令狀ヲ交付シ得サルトキハ其ノ人名(其ノ事由ヲ記シ)ヲ速ニ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

第五十八條 被點呼者ニ代リ點呼令狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通報シ其ノ令狀ヲ本人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條 被點呼者ハ指定ノ日時迄ニ召集所ニ到着シ點呼ヲ受クヘシ

第六十條 被點呼者ノ住復旅費ハ解散ヲ命スルトキ簡閱點呼執行官若ハ簡閱點呼執行官附主計官ヨリ給スルモノトス

第六十一條 憲兵及警察官吏第五十七條第四項ノ通知ヲ受ケルトキハ其ノ被點呼者ヲシテ所命ノ日時ニ參會セシムルノ處置ヲ爲スヘシ

第六十二條 郡市長並町村長ハ簡閱點呼ニ參列スヘシ

第六十三條 被點呼者傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ簡閱點呼ニ參會スルコト能ハサルトキハ市町村長ヲ經テ事由届書ヲ點呼執行日時ニ簡閱點呼執行官ニ差出スヘシ但シ傷痍疾病ノ者ニ在テハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第六十四條 被點呼者集合スルトキハ簡閱點呼執行官ハ點呼名簿ノ順序ニ從ヒ點呼シ所要ノ調査ヲ行ヒ必要ノ訓示ヲ與ヘ解散ヲ命スヘシ

第六十五條 正當ノ事由ナクシテ簡閱點呼ニ參會セサル者及第六十三條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六十六條 正當ノ事由ナクシテ第五十八條ノ規定ニ背ク者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス被點呼者簡閱點呼場ニ於テ簡閱點呼執行官ノ命令ニ服セス又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨害スルトキ亦同シ

第六十七條 簡閱點呼執行官簡閱點呼ヲ終ルトキハ點呼實況報告書及點呼人員表各二通ヲ鎮守府司令長官ニ差出スヘシ

第六十八條 鎮守府司令長官ハ前條ノ書類ヲ取纏メ一通ヲ海軍大臣ニ進達シ一通ヲ兵事官ニ下附スヘシ(同上)

附則

第六十九條 本條例中郡市長ノ職務ハ島司支廳長若ハ之ニ準スヘキ者並東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區長之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長及之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

〔参照〕

三十一年十月海軍省令第十號施行細則

●軍港要港規則違反者處分方

明治二十三年九月
法律第八十三號

軍港 要港規則違反者處分方

明治二十三年法律第二號ニ依リ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ違ヒタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔参照〕

二十三年法律第二號軍港要港二開スル件

二十九年海軍省令第六號及三十二年同第十四號續須賀軍港規則

二十九年同省令第七號及三十二年同第十五號吳軍港規則

二十九年同省令第八號及三十二年同第十六號佐世保軍港規則

二十九年同省令第十二號及三十二年同第十七號舞鶴軍港規則

二十九年同省令第十三號及三十二年同第十八號竹敷軍港規則

●要塞地帶法

明治三十二年七月
法律第五號

要塞地帶法

第一章 總則

第一條 要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ謂フ

第二條 要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基點トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以內ニ於テ之ヲ定ム

第三條 要塞地帶ハ陸地ト海面トナ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ並之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第一區 基線ヨリ測リ二百五十間以内及基線ト防禦營造物間ノ區域

要塞地帶法

第二區 基線ヨリ測リ七百五十間以内

第三區 基線ヨリ測リ二千二百五十間以内

第四條 要塞司令官鎮守府司令官及築城部本部長ハ要塞地帯ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下ノ官僚ヲシテ要塞地帯内及第七條第二項ノ区域内何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地内ニ出入セシメントスルトキハ互ニ該當官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域内ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令官及要塞部司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條第三條及第七條第二項ニ定メタル區域ニ付テ之ヲ適用ス但シ基線以内ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯内水陸ノ形狀ヲ測量撮影模寫錄取スルコトヲ得ス

前規ノ規定ハ要塞地帯外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

第八條 要塞司令官ハ要塞地帯内ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ

要塞地帯外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帯ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 第一區内ニ於テ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫
- 二 窰室及固定窰爐
- 三 不燃質物ヲ以テ築造セル高サ二尺ヲ超ユル諸般ノ建築物

第十一條 第一區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 埋葬地
 - 二 水車及風車
 - 三 井
 - 四 容易ニ他ニ移轉スヘカラサル器械器具ヲ備フル家屋
 - 五 生垣及木造ノ圍障
 - 六 第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫
- 第十二條 第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ
- 一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫

二 埋葬地

三 不燃質物ヲ以テ築造セル高サ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十三條 第一區第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屋内ト屋外トヲ問ハス累積スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 第一區内ニ於テハ高サ五尺、第二區内ニ於テハ高サ八尺以上ニ累積スル不燃質物及石炭類

二 第一區内ニ於テハ高サ一丈三尺、第二區内ニ於テハ高サ一丈二尺以上ニ累積スル薪炭及竹木材

第十四條 第一區第二區内ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築増築スルコトヲ得ス

第十五條 各區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非レハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工即チ堆土開鑿等

二 溝渠、鹽田、排水及灌漑

三 公園、育種場、竹木林、菓園及桑茶畑

四 耕作地

第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第十七條 本章ノ禁止制限ニ違背シ新設改築増築變更シタル家屋倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等ハ

違背者ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ル者ハ之ヲ復舊セシメ期限内ニ除去復舊セサルトキ若ハ其ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ方法宜シキヲ得サルトキハ官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行又ハ第三者ナシテ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ政府ハ國稅ニ次キ先取權ヲ有ス

本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸軍大臣之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官之ヲ爲スヘシ

第十八條 地帶ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示又ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十九條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限リ特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ

第二十條 本章ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニシテ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合若ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ掲グル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ第十九條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳

ニ協議スルコトヲ要ス

第二十一條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條第九條第十一條乃至第十五條ニ掲グル事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認第十六條ニ掲グル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章 罰則

第二十二條 第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ
第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第二十四條 第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十四條ニ違犯シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石標木標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四章 雜則

第二十七條 要塞地帯創設告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、増築中ニ係ルモノハ此

ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス

第二十八條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ明治二十三年法律二十三號陸地測量標條例ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第三十條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨グルコトナシ

第三十一條 明治三十一年勅令第七十六號ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル箇所ニ限り其ノ效力ヲ失フ

〔參照〕

- 三十三年陸軍省令第十四號施行規則(次項)
- 同年海軍省令第十六號同上(別項)
- 三十三年法律第二十三號陸地測量標條例(地理ノ部)

●要塞地帯法施行規則

明治三十三年六月
陸軍省令第十四號

要塞地帯法施行規則

第一條 要塞地帯法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬、煉瓦、石、土及之ニ準スヘキモノヲ謂ヒ道路橋梁ト稱スルハ國道縣道及道幅三間以上ノ公共道路及此等ノ路線ニ架設スル橋梁ヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル事項ハ許可ヲ受クルノ限ニ在ラス

- 一 港灣ニ出入スル艦船ノ航行ニ必要ナル錘測
 - 二 土地ノ丈量但シ地目地類ノ變換土地分合境界査定家屋倉庫ノ新設變更並本項第三號乃至第十號ニ掲クル作業ニ要スルモノニ限ル
 - 三 長サ百間ヲ超エサル生垣及木造ノ圍障ノ新設變更
 - 四 建坪三十坪ヲ超エサル平家ノ家屋倉庫ノ新設變更但シ不燃質物ヲ以テ築造セサルモノニ限ル
 - 五 高低一尺面積百坪ヲ超エサル堆土、開墾等
 - 六 宅地内ニ於テスル築山(高サ六尺以下ノモノ)泉水(深サ二尺ニ滿タサルモノ)等ノ新設變更
 - 七 不可抗力ニ因リ變更シタル土地物件ヲ原狀ニ復スル作業
 - 八 深二尺幅三尺ヲ超エサル溝渠及排水灌水ノ新設變更
 - 九 竹木林ノ伐採
 - 十 面積百坪ヲ超エサル育種場果園桑茶畑鹽田及耕作地ノ新設變更
- 第三條 要塞地帯法第十條ノ禁止ヲ解除シタル場合ニ於テハ尙要塞司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第四條 要塞司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記シ其作業地ヲ管轄スル市町村長ノ與書ヲ得テ當該要塞司令官ニ願出ツヘシ
- 一 要塞地帯法第七條ニ掲グルモノニ在リテハ其目的、區域及期限

二 要塞地帯法第九條ニ掲グルモノニ在リテハ漁獵採藻ノ區域及期限、艦船繫泊ノ位置及期限、土砂掘鑿ノ區域、方法及期限

三 要塞地帯法第十條(解除シタル事項ニ限ル)乃至第十二條並第十五條ニ掲グルモノニ在リテハ其目的、設計、位置及落成期限但シ同法第十一條第四號ニ掲グルモノニ在リテハ其器械器具設備ノ設計及其位置共

四 要塞地帯法第十三條ニ掲グルモノニ在リテハ累積物ノ種類、累積ノ目的、位置、高サ並期間、要塞地帯法第十四條ニ依リ認可ヲ得ムトスルモノハ前項ニ準ス

第五條 陸軍大臣ノ許可ヲ得ムトスル者ハ工事ノ種類、設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該要塞司令官ヲ經由シテ陸軍大臣ニ願出ツヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ地方長官ノ證明ヲ要セス

第六條 府縣郡市町村水利組合其他公共團體並社團法人ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ願出ツヘシ
府縣郡市町村水利組合其他公共團體ヨリ出願スル場合又ハ要塞地帯法第七條中攝影摸寫錄取ヲ出願スル場合若ハ本則第七條ノ場合ニハ第四條ノ與書ヲ要セス

第七條 許可ヲ受クヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノハ先ツ其許可ヲ受ケ許可書ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第八條 前諸條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス

許可證ハ作業ヲ實施スル者必ス携帶シ何時ニテモ憲兵、衛戍服務ノ軍人及警察官吏ノ閱覽ニ供スヘシ

第十條 許可證ヲ失ヒタルトキハ速ニ其ノ再下付ヲ願出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ最寄警察官署又ハ憲兵屯所ニ其旨ヲ届出テ作業ヲ繼續スルコトヲ得

第十一條 許可ヲ受ケタル作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掲クヘシ但シ要塞

地帯法第七條及第九條ニ掲グルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其旨

ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長ニ届出ツヘシ市町村長ハ之ヲ取纏メ毎月末日ヲ以テ當該司令官ニ報告スヘシ

第十三條 許可證ヲ所持スヘキ者ニシテ當該官ノ閱覽ヲ拒ミタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十四條 本則ハ陸軍防禦營造物ノ地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造

物ノ地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域ヲ除キ總テノ要塞地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域

ニ關シテ之ヲ適用ス

第十五條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

三十二年法律第百五號要塞地帯法(前項)

●要塞地帯法施行規則

明治三十三年六月
海軍省令第十六號

要塞地帯法施行規則

第一條 要塞地帯法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬、煉化、石、土及之ニ準スヘキモノヲ謂ヒ道路ト

稱スルハ國道縣道及道幅三間以上ノ公共道路ヲ謂ヒ橋梁ト稱スルハ道路ヲ交續スル爲メ架設スルモノヲ謂フ

第二條 左ニ掲グル事項ハ要塞地帯法ニ依リ許可ヲ受クルヲ要セス

一 港灣ニ出入スル艦船ノ航行ニ必要ナル錘測

二 土地ノ丈量但シ地目地類ノ變換、土地分合、境界査定、家屋倉庫ノ新設變更並本項第三號乃至第十號ニ掲グル作業ニ要スルモノニ限ル

三 長サ百間ヲ超ヘサル生垣及木造ノ圍障ノ新設變更

四 建坪三十坪ヲ超ヘサル平屋建ノ家屋倉庫ノ新設變更但シ不燃質物ヲ以テ築造スルモノヲ除ク

五 高低一尺面積百坪ヲ超ヘサル堆土、開鑿等

六 宅地内ニ於テスル築山(高サ六尺以下ノモノ)泉水(深三尺ニ滿タサルモノ)等ノ新設變更

- 七 不可抗力ニ由リ變更シタル土地物件ノ原狀ニ復スル作業
- 八 深サ二尺幅三尺ヲ超ヘサル溝渠、排水及灌水ノ新設變更
- 九 竹木林ノ伐採
- 十 面積百坪ヲ超ヘサル育種場、菓園、桑茶畑、鹽田及耕作地ノ新設變更
- 第三條 鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ許可ヲ得ントスルモノハ左ニ掲グル事項ヲ記シ其ノ作業地ヲ管轄スル市町村長ノ與書ヲ得テ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ニ願出ヘシ
 - 一 要塞地帯法第七條ニ掲グルモノハ其ノ目的區域及期限
 - 二 同法第九條ニ掲グルモノハ漁獵採藻ノ區域及期限、艦船繫泊ノ位置及期限、土地掘鑿ノ區域及期限
 - 三 同法第十一條第十二條第十四條及第十五條ニ掲グルモノハ其ノ目的設計位置及落成期限但シ同法第十一條第四號ニ掲グルモノハ其ノ器械器具ノ位置及設計ヲモ詳記スルヲ要ス
 - 四 同法第十三條ニ掲グルモノハ累積物ノ種類、累積ノ目的位置高サ並期間
- 第四條 要塞地帯法第十條ノ事項ノ禁止ヲ解除シタル場合ニハ仍ホ本則第三條ノ規定ヲ適用シ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第五條 海軍大臣ノ許可ヲ得ントスルモノハ工事ノ種類設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ヲ經由シテ海軍大臣ニ願出ヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ

地方長官ノ證明ヲ要セス

- 第六條 府縣郡市町村水利組合其ノ他公共團體並社團法人ニ在テハ其ノ代表者ヨリ願出ヘシ
- 前項ノ場合又ハ要塞地帯法第七條中撮影模寫錄取ヲ出願スル場合若ハ本則第七條ノ場合ニハ本則第三條ノ與書ヲ要セス
- 第七條 許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノハ先ツ其ノ許可ヲ受ケ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス
- 第八條 前諸條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス
- 第九條 許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス
 - 許可證ハ作業ヲ實施スル者必ス之ヲ携帯シ其ノ地點ヲ警衛スル軍人軍屬憲兵及警察官吏ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ閱覽ニ供スヘシ
- 第十條 許可證ヲ失ヒタルトキハ速ニ其ノ再交付ヲ願出ヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ同時ニ其ノ旨ヲ最寄警察官吏又ハ憲兵ニ届出テ其ノ承認ヲ得テ作業ヲ繼續スルコトヲ得
- 第十一條 許可ヲ受ケタル作業者ハ作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掲グヘシ但シ要塞地帯法第七條及第九條ニ掲グルモノハ此ノ限ニアラス
- 第十二條 許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其ノ

官若ハ要港部司令官ニ報告スヘシ
官ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長ニ届出ヘシ市町村長ハ之ヲ取纏メ毎月末日ヲ以テ當該鎮守府司令長

官若ハ要港部司令官ニ報告スヘシ
第十三條 許可證ヲ所持スヘキモノニシテ當該官吏ノ閱覽ヲ拒ミタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十四條 本則ハ海軍防禦營造物ノ地帯及要塞地帯法第七條第二項ノ區域ニノミ之ヲ適用ス

第十五條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

三十二年法律第百五號要塞地帯法(別編)

●要塞近傍ニ於ケル水陸測量等ノ取締

明治三十一年七月
勅令第百七十六號

要塞近傍ニ於ケル水陸測量等ノ取締

第一條 要塞ニ於ケル各防禦營造物ノ周圍ヨリ外方五千七百五十間以内ノ水陸ノ形狀ヲ測量摸寫攝影筆記セムトスル者ハ豫メ當該要塞司令官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ區域内ヲ「明治二十二年法律第十九號土地收用法第五條若ハ第七條」ニ依リ測量又ハ検査セムトスル者若ハ明治二十二年法律第八十七號鑛業條例第四十七條ニ依リ測量セムトスル者ハ豫メ當該

要塞司令官ニ届出ヘシ

前二項ノ場合ニ於テ測量摸寫攝影筆記ヲ爲スノ方法區域ハ當該要塞司令官ノ指示ニ從フヘシ

第二條 官廳ニ於テ前條第一項ノ區域内ノ水陸ノ形狀ヲ測量摸寫攝影筆記セムトスルトキハ豫メ當該要塞司令官ノ承認ヲ受クヘシ

官廳ニ於テ前條第一項ノ區域内ヲ「明治二十二年法律第十九號土地收用法第五條若ハ第七條」ニ依リ測量又ハ検査セムトスルトキハ豫メ當該要塞司令官ニ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ測量摸寫攝影筆記ヲ爲スノ方法區域ハ當該要塞司令官ト協議シテ之ヲ定ムヘシ
第三條 前二條ノ規定ハ要塞ノ設ナシト雖モ之ヲ設ケルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定各防禦營造物ノ周圍ヨリ外方五千七百五十間以内ノ水陸ノ形狀ヲ測量摸寫攝影筆記スル場合ニモ之ヲ適用ス

第四條 第一條第一項及第三條ノ區域ハ陸軍大臣之ヲ告示ス

第五條 第一條各項ニ違犯シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス第三條ニ依リ第一條ヲ適用スル場合ニ於テ其ノ各項ニ違犯シタル者亦同シ

第六條 第一條第一項及第三條ノ區域ヲ表示スル爲ニ設ケタル標石、標木若ハ標札ノ類ヲ移轉シ若ハ毀損シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第七條 第一條第二條第三條ノ規定ハ第四條ニ依リ陸軍大臣ノ告示シタル箇所ニ限リ之ヲ適用ス
 第八條 本令ニ規定スル要塞司令官ノ職務ハ警備隊ヲ置キタル箇所ニ在リテハ警備隊司令官其ノ他要
 塞司令官在ラサル箇所ニ在リテハ其ノ地ノ衛戍司令官(衛戍司令官在ラサルトキハ築城部支部長)之
 ナ行フ

第九條 軍港要港規則ニ特ニ禁令アル事項ニ關シテハ本令ノ規定ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第十條 本令ハ陸海軍官憲ニ於テ行フ測量模寫攝影筆記ニ適用セス

●要塞地帯各區内ニ於ケル新設及變更届出ノ件

明治三十二年八月
陸軍省令第二十一號

(本令ハ明治三十二年八月三十一日マテニ届出ツヘキ規定ニ係ルモノナルヲ以テ略ス)

第五類 民 刑

第一章 民事

●民法總則編(抄)

明治二十九年四月
法律第八十九號

民法總則編

第二章 法人

第一節 法人ノ設立

第三十三條 法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス

第三十四條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセサルモ
ノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

第三十五條 營利ヲ目的トスル社團ハ商事會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

前項ノ社團法人ニハ總テ商事會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 外國法人ハ國、國ノ行政區畫及ヒ商事會社ヲ除ク外其成立ヲ認許セス但法律又ハ條約ニ
依リテ認許セラレタルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ認許セラレタル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ有ス但外國

人カ享有スルコトヲ得サル權利及ヒ法律又ハ條約中ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第三十七條 社團法人ノ設立者ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 資産ニ關スル規定

五 理事ノ任免ニ關スル規定

六 社員タル資格ノ得喪ニ關スル規定

第三十八條 社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限り之ヲ變更スルコトヲ得但

定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

定款ノ變更ハ主務官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第三十九條 財團法人ノ設立者ハ其設立ヲ目的トスル寄附行為ヲ以テ第三十七條第一號乃至第五號ニ

掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十條 財團法人ノ設立者カ其名稱、事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定メスシテ死亡シタルトキハ

裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十一條 生前處分ヲ以テ寄附行為ヲ爲ストキハ贈與ニ關スル規定ヲ準用ス

遺言ヲ以テ寄附行為ヲ爲ストキハ遺贈ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十二條 生前處分ヲ以テ寄附行為ヲ爲シタルトキハ寄附財産ハ法人設立ノ許可アリタル時ヨリ法

人ノ財産ヲ組成ス

遺言ヲ以テ寄附行為ヲ爲シタルトキハ寄附財産ハ遺言カ效力ヲ生シタル時ヨリ法人ニ歸屬シタルモ

ノト看做ス

第四十三條 法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行為ニ因リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テ權利

ヲ有シ義務ヲ負フ

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ議決ヲ賛成シタ

ル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其賠償ノ責ニ任ス

第四十五條 法人ハ其設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ要ス

法人ノ設立ハ其主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ

得ス

法人設立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ一週間内ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十六條 登記スヘキ事項左ノ如シ

一 目的

- 二 名稱
 - 三 事務所
 - 四 設立許可ノ年月日
 - 五 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期
 - 六 資産ノ總額
 - 七 出資ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法
 - 八 理事ノ氏名、住所
- 前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス登記前ニ在リテハ其變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第四十七條 第四十五條第一項及ヒ前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
- 第四十八條 法人カ其事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス
- 同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
- 第四十九條 第四十五條第三項、第四十六條及ヒ前條ノ規定ハ外國法人カ日本ニ事務所ヲ設ケル場合ニモ亦之ヲ適用ス但外國ニ於テ生シタル事項ニ付テハ其通知ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

ス

外國法人カ始メテ日本ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ他人ハ其法人ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第五十一條 法人ハ設立ノ時及ヒ毎年始ノ三ヶ月内ニ財産目錄ヲ作り常ニ之ヲ事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス但特ニ事業年度ヲ設ケルモノハ設立ノ時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス
社団法人ハ社員名簿ヲ備ヘ置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス

第二節 法人ノ管理

第五十二條 法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クコトヲ要ス

理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五十三條 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ス又社団法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス

第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十五條 理事ハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限り特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十六條 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス

第五十七條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第五十八條 法人ニハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得

第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ

- 一 法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト
- 二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト
- 三 財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官應ニ報告スルコト

四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ招集スルコト

第六十條 社團法人ノ理事ハ少クトモ毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス

第六十一條 社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

總社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此定數ハ定款ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得

第六十二條 總會ノ招集ハ少クトモ五日前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒ

テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其ノ他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總テ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ

第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第六十五條 各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

總會ニ出席セサル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出タスコトヲ得

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第六十六條 社團法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其社員ハ表決權ヲ有セス

第六十七條 法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ何時ニテモ職權ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第三節 法人ノ解散

第六十八條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生
- 二 法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其ノ成功ノ不能

三 破産

四 設立許可ノ取消

社團法人ハ前項ニ掲ケタル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 總會ノ決議
- 二 社員ノ缺亡

第六十九條 社團法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十條 法人カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ理事ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十一條 法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其許可ヲ取消スコトヲ得

第七十二條 解散シタル法人ノ財産ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス

定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財産ヲ處分スルコトヲ得但社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス
前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレサル財産ハ國庫ニ歸屬ス

第七十三條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其清算ノ終了ニ至ルマテ尙ホ存続スルモノト看做ス

第七十四條 法人カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但定款若クハ寄附行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第七十五條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十六條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十七條 清算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外解散後一週間内ニ其氏名、住所及ヒ解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一週間内ニ其氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且ツ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第七十八條 清算人ノ職務左ノ如シ

- 一 現務ノ終了
- 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
- 三 殘餘財産ノ引渡

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 清算人ハ其就職ノ日ヨリ二个月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清算ヨリ除外セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル債權者ヲ除外スルコトヲ得ス

清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス

第八十條 前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完済ノ後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル財産ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 清算中ニ法人ノ財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス

清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ乏ヲ取戻スコトヲ得

第八十二條 法人ノ解散及ヒ清算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第八十三條 清算カ終了シタルトキハ清算人ハ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第八十四條 法人ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上、二百圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一、本章ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二、第五十一條ノ規定ニ違反シ又ハ財産目錄若クハ社員名簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 三、第六十七條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ主務官廳又ハ裁判所ノ検査ヲ妨ケタルトキ
- 四、官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 五、第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 六、第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

〔参照〕

三十一年法律第十一號民法施行法(別掲)

民法相續編(抄)

明治三十一年六月 法律第九號

民法相續編

第六章 遺言

第一節 總則

第一千六十條 遺言ハ本法ニ定メタル方式ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一千六十一條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

第一千六十二條 第四條、第九條、第十二條及ヒ第十四條ノ規定ハ遺言ニハ之ヲ適用セス

第一千六十三條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

第一千六十四條 遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財産ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第一千六十五條 第九百六十八條及ヒ第九百六十九條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス

第一千六十六條 被後見人カ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ配偶者若クハ直系卑屬ノ利益ト爲ルヘキ遺言ヲ爲シタルトキハ其遺言ハ無効トス

前項ノ規定ハ直系血族、配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節 遺言ノ方式

第一款 普通方式

第一千六十七條 遺言ハ自筆證書、公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但特別方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス

第一千六十八條 自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ遺言者其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

自筆證書中ノ挿入、削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ

署名シ且其變更ノ場所ニ捺印スルニ非サレハ其效ナシ

第一千六十九條 公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

一 證人二人以上ノ立會アルコト

二 遺言者カ遺言ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト

三 公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シ之ヲ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト

四 遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名、捺印スルコト但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テハ公證人其事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得

五 公證人カ其證書ハ前四號ニ揚ケタル方式ニ從ヒテ作りタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名、捺印スルコト

捺印スルコト

第一千七十條 秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

一 遺言者カ其證書ニ署名、捺印スルコト

二 遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用キタル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト

三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名、住所ヲ申述スルコト

四 公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコト

第六十八條第二項ノ規定ハ秘密證書ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第七十一條 秘密證書ニ依ル遺言ハ前條ニ定メタル方式ニ缺クルモノアルモ第六十八條ノ方式ヲ具備スルトキハ自筆證書ニ依ル遺言トシテ其效力ヲ有ス

七十二條 言語ヲ發スルコト能ハサル者カ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ遺言者ハ公證人及ヒ證人ノ前ニ於テ其證書ハ自己ノ遺言書ナル旨並ニ其筆者ノ氏名、住所ヲ封紙ニ自書シテ第七十條第一項第三號ノ申述ニ代フルコトヲ要ス

公證人ハ遺言者カ前項ニ定メタル方式ヲ踐ミタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申述ノ記載ニ代フルコトヲ要ス

七十三條 禁治產者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在ラサリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス但秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名、捺印ヲ爲スコトヲ要ス

七十四條 左ニ掲ケタル者ハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治產者及ヒ準禁治產者

三 剝奪公權者及ヒ停止公權者

四 遺言者ノ配偶者

五 推定相續人、受遺者及ヒ其配偶者並ニ直系血族

六 公證人ト家ヲ同シクスル者及ヒ公證人ノ直系血族並ニ筆生、雇人

七十五條 遺言ハ二人以上同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二款 特別方式

七十六條 疾病其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル者カ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ證人三人以上ノ立會ヲ以テ其一人ニ遺言ノ趣旨ヲ口授シテ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其口授ヲ受ケタル者之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセ各證人其筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言ノ日ヨリ二十日內ニ證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ裁判所ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

裁判所ハ遺言カ遺言者ノ眞意ニ出テタル心證ヲ得ルニ非サレハ之ヲ確認スルコトヲ得ス

七十七條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場所ニ在ル者ハ警察官一人及ヒ證人一人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

七十八條 從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ

作ルコトヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場所ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷痍ノ爲メ病院ニ在ルトキハ其院ノ醫師ヲ以テ前項ニ掲ケタル將校又ハ相當官ニ代フルコトヲ得

第千七十九條 從軍中疾病、傷痍其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル軍人及ヒ軍屬ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名、捺印シ且證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ遲滞ナク理事又ハ主理ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

第千七十六條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千八十條 艦船中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第千八十一條 第千七十九條ノ規定ハ艦船遭難ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第千八十二條 第千七十七條、第千七十八條及ヒ第千八十條ノ場合ニ於テハ遺言者、筆者、立會人及ヒ證人ハ各自遺言書ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第千八十三條 第千七十七條乃至第千八十一條ノ場合ニ於テ署名又ハ捺印スルコト能ハサル者アルトキハ立會人又ハ證人ハ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第千八十四條 第千六十八條第二項及ヒ第千七十三條乃至第千七十五條ノ規定ハ前八條ノ規定ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第千八十五條 前九條ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言者カ普通方式ニ依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ六ヶ月間生存スルトキハ其效ナシ

第千八十六條 日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ祕密證書ニ依リテ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ公證人ノ職務ハ領事之ヲ行フ

第三節 遺言ノ效力

第千八十七條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

第千八十八條 受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得遺贈ノ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ逆リテ其效力ヲ生ス

第一千八十九條 遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ遺贈ノ承認及ハ拋棄ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受遺者カ其期間内ニ遺贈義務者ニ對シテ其意思ヲ表示セサルトキハ遺贈ヲ承認シタルモノト看做ス

第一千九十條 受遺者カ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲サシテ死亡シタルトキハ其相續人ハ自己ノ相續權ノ範圍内ニ於テ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十一條 遺贈ノ承認及ヒ拋棄ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第一千九十二條 包括受遺者ハ遺贈ノ承認及ヒ拋棄ニ之ヲ準用ス

第一千九十三條 受遺者ハ遺贈力辨濟期ニ至ラサル間ハ遺贈義務者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得停止條件附遺贈ニ付キ其條件ノ成否未定ノ間亦同シ

第一千九十四條 受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ル時ヨリ果實ヲ取得ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十五條 遺贈義務者カ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ出ダシタルトキハ第二百九十九條ノ規定ヲ準用ス

果實ヲ收取スル爲メニ出ダシタル通常ノ必要費ハ果實ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ其償還ヲ請求スルコトヲ得

第一千九十六條 遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其効力ヲ生セス
停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同シ但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十七條 遺贈カ其効力ヲ生セサルトキ又ハ拋棄ニ因リ其効力ナキニ至リタルトキハ受遺者カ受

クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
第一千九十八條 遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財產ニ屬セサルトキハ其効力ヲ生セス但其權利カ相續財產ニ屬セサルコトアルニ拘ハラズ之ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト認ムヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第一千九十九條 相續財產ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ前條但書ノ規定ニ依リテ有効ナルトキハ遺贈義務者ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ受遺者ニ移轉ヘル義務ヲ負フ若シ之ヲ取得スルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スルニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千百條 不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ受遺者カ追奪ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者之ニ對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス
前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス

第一千一百一條 遺言者カ遺贈ノ目的物ノ滅失若クハ變造又ハ其占有ノ喪失ニ因リ第三者ニ對シテ償金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其權利ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

遺贈ノ目的物カ他ノ物ト附合又ハ混和シタル場合ニ於テ遺言者カ第二百四十三條乃至第二百四十五條ノ規定ニ依リ合成物又ハ混和物ノ單獨所有者又ハ共有者ト爲リタルトキハ其全部ノ所有權又ハ共有權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第一千一百二條 遺贈ノ目的タル物又ハ權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ受遺者ハ遺贈義務者ニ對シ其權利ヲ消滅セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ヌ但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第一千一百三條 債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者カ辨濟ヲ受ケ且其受取リタル物カ尙ホ相續財産中ニ存スルトキハ其物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

金錢ヲ目的トスル債權ニ付テハ相續財産中ニ其債權額ニ相當スル金錢ナキトキト雖モ其金額ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第一千一百四條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スル責ニ任ス

受遺者カ遺贈ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受ケヘキ者自ラ受遺者ト爲ルコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千一百五條 負擔附遺贈ノ目的ノ價額カ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者ハ其減少ノ割合ニ應シテ其負擔シタル義務ヲ免ル但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第四節 遺言ノ執行

第一千一百六條 遺言書ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知リタル後遲滯ナク之ヲ裁判所ニ提出シテ其檢認ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ相續人カ遺言書ヲ發見シタル後亦同シ

前項ノ規定ハ公正證書ニ依ル遺言ニハ之ヲ適用セス
封印アル遺言書ハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其代理人ノ立會ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス

第一千一百七條 前條ノ規定ニ依リテ遺言書ヲ提出スルコトヲ怠リ、其檢認ヲ經スシテ遺言ヲ執行シ又ハ裁判所外ニ於テ其開封ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處セラレ

第一千一百八條 遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス
遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者カ其委託ヲ辭セントスルトキハ遲滯ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

第一千九條 遺言執行者カ就職ヲ承諾シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコトヲ要ス

第一千十條 相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ就職ヲ承諾スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ遺言執行者カ其期間内ニ相續人ニ對シテ確答ヲ爲ササルトキハ就職ヲ承諾シタルモノト看做ス

第一千十一條 無能力者及ヒ破産者ハ遺言執行者タルコトヲ得ス

第一千十二條 遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ選任シタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ就職ヲ拒ムコトヲ得ス

第一千十三條 遺言執行者ハ遲滯ナク相續財産ノ目錄ヲ調製シテ之ヲ相續人ニ交付スルコトヲ要ス

遺言執行者ハ相續人ノ請求アルトキハ其立會ヲ以テ財産目錄ヲ調製シ又ハ公證人ヲシテ之ヲ調製セシムルコトヲ要ス

第一千十四條 遺言執行者ハ相續財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ有ス

第六百四十四條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ遺言執行者ニ之ヲ準用ス

第一千十五條 遺言執行者アル場合ニ於テハ相續人ハ相續財産ヲ處分シ其他遺言ノ執行ヲ妨グヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第一千十六條 前三條ノ規定ハ遺言カ特定財産ニ關スル場合ニ於テハ其財産ニ付テノミ之ヲ適用ス

第一千十七條 遺言執行者ハ之ヲ相續人ノ代理人ト看做ス

第一千十八條 遺言執行者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

遺言執行者カ前項但書ノ規定ニ依リ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ相續人ニ對シ第三百五條ニ定メタル責任ヲ負フ

第一千十九條 數人ノ遺言執行者アル場合ニ於テハ其任務ノ執行ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

各遺言執行者ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ保存行爲ヲ爲スコトヲ得

第一千二十條 遺言執行者ハ遺言ニ報酬ヲ定メタルトキニ限り之ヲ受クルコトヲ得

裁判所ニ於テ遺言執行者ヲ選任シタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ其報酬ヲ定ムルコトヲ得

遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第六百四十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用ス

第一千二十一條 遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ利害關係人ハ其解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得

第一千二十二條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務カ終了シタル場合ニ

之ヲ準用ス

第一千二百二十三條 遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但之ニ因リテ遺留分ヲ減スルコトヲ得ス

第五節 遺言ノ取消

第一千二百二十四條 遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得
第一千二百二十五條 前ノ遺言ト後ノ遺言ト抵觸スルトキハ其抵觸スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處分其他ノ法律行為ト抵觸スル場合ニ之ヲ準用ス
第一千二百二十六條 遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

第一千二百二十七條 前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行為カ取消サレ又ハ效力ヲ生セサルニ至リタルトキト雖モ其效力ヲ回復セス但其行為カ詐欺又ハ強迫ニ因ル場合ハ此限ニ在ラス
第一千二百二十八條 遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第一千二百二十九條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルトキハ相續人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

〔參照〕

三十一年法律第十一號民法施行法(次項)

●民法施行法(抄)

明治三十一年六月
法律第十一號

民法施行法

第二章 總則編ニ關スル規定

第十二條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者ハ其ノ施行ノ日ヨリ禁止治産者又ハ準禁止治産者ト看做ス

後見人ハ民法施行ノ日ヨリ一个月内ニ禁止治産又ハ準禁止治産ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者カ民法施行ノ日ヨリ一个月内ニ禁止治産又ハ準禁止治産ノ請求ヲ爲ササリシトキハ其期間經過ノ後ハ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

前項ノ期間内ニ禁止治産又ハ準禁止治産ノ請求アリタルモ裁判所ニ於テ之ヲ却下シタルトキハ抗告期間經過ノ後、若シ抗告アリタルトキハ最後ノ抗告棄却ノ時ヨリ又訴ニ於テ禁止治産又ハ準禁止治産ノ宣告ヲ取消シタルトキハ其判決確定ノ日ヨリ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

第十四條 刑法第十條第三號、第三十五條、第三十六條、刑法附則第四十一條、陸軍刑法第十八條第四號及ヒ海軍刑法第九條第四號、第二十二條ハ之ヲ削除ス

刑法第五十五條中「行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得但」ノ二十三字及ヒ陸軍刑法第

三十二條中「第二十五條第三十六條」ノ十字ハ之ヲ削除ス

第十五條 民法施行ノ日ニ於テ刑事禁治産者タル者ハ其施行ノ日ヨリ能力ヲ回復ス

第十六條 民法施行前ヨリ刑事禁治産者ノ財産ヲ管理スル者ハ刑事禁治産者又ハ刑事禁治産者カ定メタル他ノ管理者カ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルマテ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ管理者ハ民法第百三條ニ定メタル權限ヲ有ス但刑事禁治産者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 民法第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ民法施行前ニ住所又ハ居所ヲ去リタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

民法施行前ヨリ不在者ノ財産ヲ管理スル者ハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其管理ヲ繼續ス

第十八條 民法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ民法施行前ヨリ生死分明ナラサル者ニモ亦之ヲ適用ス

民法施行前既ニ民法第三十條ノ期間ヲ經過シタル者ニ付テハ直チニ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ失踪者ハ民法ノ施行ト同時ニ死亡シタルモノト看做ス

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第二十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス

前項ノ法人ノ代表者ハ民法第二十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項其他社員又ハ寄附者カ定メタ

ル事項ヲ記載シタル書面ヲ作り民法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ主務官廳ニ差出タシ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條 法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ認可ヲ得タルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 民法第四十六條第一項第一號乃至第三號及ヒ第五號第八號ニ掲ケタル事項

二 主務官廳ノ認可ノ年月日

前項ノ期間ハ主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 第十九條第一項ノ法人カ財産目錄又ハ社員名簿ヲ備ヘサルトキハ民法施行ノ後遲滯ナク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二條 法人ノ代表者カ前三條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ、登記ヲ爲シ又ハ財産目錄若クハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラレ

(參照)

二十九年法律第八十四號民法總則編法人ノ部(別掲)

●戸籍法

明治三十一年六月
法律第十二號

戸籍法

第一章 戸籍吏及ヒ戸籍役場

第一條 戸籍及ヒ自分登記ニ關スル事務ハ戸籍吏之ヲ管掌シ戸籍役場ニ於テ之ヲ取扱フ

第二條 市町村長ヲ以テ戸籍吏トス但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條 戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戸籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者戸籍吏ノ職務ヲ行フ

戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ依リ戸籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ戸籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人、町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者戸籍吏ノ職務ヲ行フ

第四條 戸籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 戸籍吏カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害ハ戸籍吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ス

第二章 身分登記簿

第七條 身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種トシ各正副二本ヲ備フ各種ノ登記簿ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第八條 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス

第九條 戸籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ヲ作り監督官ノ契印ヲ請フコトヲ要ス監督官カ帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ職印ヲ以テ毎葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シテ之ヲ戸籍吏ニ還付スルコトヲ要ス

第十條 身分登記簿ノ用紙カ不足ナルトキハ戸籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作りテ契印ヲ請フコトヲ要ス

第十一條 身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戸籍役場ニ保存スルコトヲ要ス登記ヲ終結シタル身分登記簿ノ副本ハ遲滯ナク之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス

地方裁判所ハ其納付ヲ受ケタル身分登記簿ノ副本ヲ永久ニ保存スルコトヲ要ス

第十二條 身分登記簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外之ヲ戸籍役場外ニ持出スコトヲ得ス但